

大学等名	神戸市外国語大学
プログラム名	神戸市外国語大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (KCUFS-DASH)

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

全学共通科目(自然・人間科学領域)から「キャンパスライフ入門」(2単位)と「データサイエンス入門」(2単位)いずれの単位も修得すること。

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
キャンパスライフ入門	2	○	○	○					
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
キャンパスライフ入門	2	○	○	○					
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
キャンパスライフ入門	2	○	○	○					
データサイエンス入門	2	○	○						

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
キャンパスライフ入門	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
キャンパスライフ入門	2	○	○	○	○						
データサイエンス入門	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
キャンパスライフ入門	4-1統計および数理基礎	データサイエンス入門	4-7データハンドリング
キャンパスライフ入門	4-8データ活用実践(教師あり学習)		
データサイエンス入門	4-1統計および数理基礎		
データサイエンス入門	4-3データ構造とプログラミング基礎		
データサイエンス入門	4-4時系列データ解析		
データサイエンス入門	4-5自然言語処理		
データサイエンス入門	4-6画像認識		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット(データサイエンス入門:第2回) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化(データサイエンス入門:第2回) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会(データサイエンス入門:第2回) ・複数技術を組み合わせたAIサービス(データサイエンス入門:第2回) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方(キャンパスライフ入門:第5回・第11回)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)(キャンパスライフ入門:第13回)(データサイエンス入門:第12回) ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル(キャンパスライフ入門:第13回)(データサイエンス入門:第12回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど(キャンパスライフ入門:第5回・第11回)(データサイエンス入門:第3回) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)(データサイエンス入門:第3回) ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)(データサイエンス入門:第3回)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など(キャンパスライフ入門:第8回・第10回) ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)(キャンパスライフ入門:第12回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど(キャンパスライフ入門:第12回) ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用(データサイエンス入門:第12回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など(キャンパスライフ入門:第9回・第10回) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化(キャンパスライフ入門:第9回・第10回) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など(データサイエンス入門:第13回) ・マルチモーダル(言語、画像、音声など)、生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)(データサイエンス入門:第13回)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介(キャンパスライフ入門:第11回・第12回) ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)(キャンパスライフ入門:第5回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)(キャンパスライフ入門:第13回) ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)(キャンパスライフ入門:第14回) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト(キャンパスライフ入門:第14回) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(キャンパスライフ入門:第6回・第14回) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)(キャンパスライフ入門:第14回) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス(キャンパスライフ入門:第14回) ・AIサービスの責任論(キャンパスライフ入門:第14回) ・データ・AI活用における負の事例紹介(キャンパスライフ入門:第14回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取(キャンパスライフ入門:第15回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介(キャンパスライフ入門:第15回) ・サイバーセキュリティ(キャンパスライフ入門:第15回)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での事例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類の(量的変数、質的変数)(キャンパスライフ入門:第5回・第7回)(データサイエンス入門:第3回) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値≠最頻値でないことが多い)(キャンパスライフ入門:第7回)(データサイエンス入門:第3回) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値(キャンパスライフ入門:第7回)(データサイエンス入門:第4回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(キャンパスライフ入門:第7回)(データサイエンス入門:第3回・第4回) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)(キャンパスライフ入門:第9回・第10回)(データサイエンス入門:第5回) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列(データサイエンス入門:第5回) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)(キャンパスライフ入門:第8回)(データサイエンス入門:第7回) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)(キャンパスライフ入門:第6回)(データサイエンス入門:第7回) ・観測データに含まれる誤差の扱い(キャンパスライフ入門:第10回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)(キャンパスライフ入門:第7回・第9回)(データサイエンス入門:第6回) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)(キャンパスライフ入門:第10回)(データサイエンス入門:第6回) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)(キャンパスライフ入門:第7回)(データサイエンス入門:第6回) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)(キャンパスライフ入門:第7回)(データサイエンス入門:第6回) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)(データサイエンス入門:第6回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)(キャンパスライフ入門:第7回・第9回・第10回)(データサイエンス入門:第3回) ・データの集計(和、平均)(キャンパスライフ入門:第7回)(データサイエンス入門:第3回) ・データの並び替え、ランキング(キャンパスライフ入門:第7回)(データサイエンス入門:第3回) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)(データサイエンス入門:第3回・第4回・第5回) ・表形式のデータ(csv)(データサイエンス入門:第3回・第4回・第5回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<p>・デジタル社会において必須となる数理・データサイエンス・AIを体系的に学ぶことで、本学のディプロマポリシーである「1. 能動的に学ぶ力」を涵養する。数理・データサイエンス・AIという新しい「世界共通言語」を学び、これからの国際社会の基礎知識を身につける。</p> <p>・「キャンパスライフ入門」では、大学における学びを効果的に進めるために必要な様々な知識や技術、ものの見方や規範等のうち、初年次から不可欠になるもの、本学における学びの基礎的な資質を育ててゆく。2024年度からは、特に情報科学分野の基礎を中心に学修し、「社会におけるデータ・AI活用」「データ・AI活用における留意事項」について学ぶ。</p> <p>・「データサイエンス入門」では、社会で活用されているデータやその技術・最新動向について学ぶとともに「データリテラシー」を身につける。生成AIやプログラミング、自然言語処理の基礎を習得する。世界で活躍する人間にふさわしいリテラシーや倫理を備え、多様な背景を持つ人々と協働する力の修得を目指す。</p>

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 670人 女性 1416人 (合計 2086人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
外国語学部英米学科	691	140	560	143	127											143	26%
外国語学部ロシア学科	183	40	160	45	34											45	28%
外国語学部中国学科	239	50	200	49	39											49	25%
外国語学部イスパニア学科	196	40	160	43	34											43	27%
外国語学部国際関係学科	392	80	320	85	75											85	27%
外国語学部第2部英米学科	385	80	320	86	72											86	27%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	2,086	430	1,720	451	381	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	451	26%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

神戸市公立大学法人教育研究評議会規則(2023年4月規則第60号)第7条第1項の規定に基づき神戸市外国語大学教育研究評議会に数理・データサイエンス・AI教育推進部会を設置する。

数理・データサイエンス・AI教育推進部会は、次の事項を審議する。

- (1) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの企画、運営及び推進に関すること。
- (2) 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの点検、評価及び改善に関すること。
- (3) その他数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関すること。

⑦ 具体的な構成員

数理・データサイエンス・AI教育推進部会	部会長	林 範彦 (外国語学部総合文化教授)
数理・データサイエンス・AI教育推進部会	副部会長	前村 奈央佳 (外国語学部国際関係学科准教授)
数理・データサイエンス・AI教育推進部会	部会委員	中村 嘉孝 (外国語学部国際関係学科教授)
数理・データサイエンス・AI教育推進部会	部会委員	藤井 隆雄 (外国語学部国際関係学科教授)
数理・データサイエンス・AI教育推進部会	部会委員	関 陽介 (外国語学部総合文化准教授)
数理・データサイエンス・AI教育推進部会	オブザーバー	芝 勝徳 (本学名誉教授)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	26%	令和7年度予定	50%	令和8年度予定	75%
令和9年度予定	95%	令和10年度予定	96%	収容定員(名)	1,720

具体的な計画

本プログラムを設置した令和6年度に、1年生前期の必履修科目「初年次研修」を大幅に見直し、大学生に必要なデジタル時代の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AIに関する内容を盛り込んだ科目「キャンパスライフ入門」を新設。令和6年度以降の入学生については、1年生の必履修科目として、新入生全員が履修している。同様に、令和6年度後期に「データサイエンス入門」を新設。令和6年度以降に入学した学生は全員が一度は履修する科目としてプログラムを設計した。

制度設計上は令和9年度には100%の学生が一度は履修することになるが、一定の割合で令和5年度以前入学生も在籍することが見込まれるため、100%となるのは制度上、令和5年度以前入学生が在学年限を迎えた後の令和12年度以降である。

なお、令和5年度以前入学生をはじめ、未履修・単位未修得の学生も履修可能であり、履修登録の時期に学内ポータルサイト、ホームページ、You Tube動画を通じて、全学生に対して積極的に本プログラムのPRを行っている。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムは、大学生に必要なデジタル時代の「読み・書き・そろばん」としての位置づけで1年生の必履修科目として設定している。本学は昼間部となる「学部」と夜間部となる「第2部」を設置しているが、所属に関わりなく受講が可能ないように前期「キャンパスライフ入門」はオンデマンドで実施している。

他方、後期に実施している「データサイエンス入門」は実践的な側面を重視した授業である。ここでは高い学習効果が期待される対面クラスを展開するため、新入生クラスについては昼間部に4クラス、夜間部に1クラス設置している。さらに2年生以上が履修できるクラスを昼間部、夜間部にそれぞれ1クラスずつ開講している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

新入生への履修ガイダンスにおいて、本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて説明、学生への周知を行っている。前期に行う「キャンパスライフ入門」のイントロダクションにおいても、同授業を含む本プログラムの全体像について説明している。また、令和5年度以前に入学した学生に対しては、本学HPやポータルサイトで案内を行いPRしているが、今後は広報班やキャリアサポートセンター等とも連携を行い、本プログラムの意義についてもPRしていきたいと考えている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

前期「キャンパスライフ入門」は学部・学科特有の時間割に左右されないオンデマンド授業である。そのため、動画・課題は授業回毎に定められた期間内であれば何度も視聴が可能であり、個々の学生が自身の理解度にあわせて学習できる体制を整えている。後期「データサイエンス入門」では、より実践的な能力の開発を促す内容から、対面授業を展開しているが、きめ細やかな学習対応が必要となる。このため、本学ではデータサイエンス・アシスタント制度を導入している。同一法人内の神戸市立工業高等専門学校の本科学科4年生以上の学生の協力を得て、Excel(操作方法や関数の使用方法)やプログラミング(if、for等の簡単な処理)、PC操作(主にWindows)の授業内でのサポートを行っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

後期の対面で行っている「データサイエンス入門」の授業時間内では、⑪に記載したデータサイエンス・アシスタントを採用している。前期の「キャンパスライフ入門」ではオンデマンド授業のため、個別的な学習指導や質問受け付けは原則的に授業時間外となるが、本学のLMS「GAIDAI PASS」により随時質問の受付が可能である。またオフィスアワーを利用することで、対面・オンラインのいずれからも学生の質問に対応できる仕組みを用意している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

神戸市外国語大学数理・データサイエンス・AI教育推進部会

(責任者名) 林 範彦

(役職名) 副学長・部会長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>令和6年度は「キャンパスライフ入門」の履修者数533名、単位修得者数472名で88.6%の学生が単位修得した。「データサイエンス入門」の履修者数は464名、単位修得者数415名で89.4%の学生が単位修得した。いずれも高い単位修得率であり、プログラムの履修者451名の内、修了者は381名であった。プログラムとしても84.5%と高い修得率であり、本学学生の修学意欲の高さを改めて認識したところである。</p> <p>履修・単位修得状況については、教務入試班から数理・データサイエンス・AI教育推進部会に報告、当該部会は授業評価アンケートの結果とあわせて自己点検・評価を行い、評価企画会議に報告している。</p>
学修成果	<p>「キャンパスライフ入門」は単位認定科目であり、各回の課題提出状況・授業評価アンケートから読み取ったのは、数学が苦手な学生が多いということである。苦手ながらも懸命に取り組む姿勢が見られ、次年度のキャンパスライフ入門では、授業内で適宜フォロー解説を入れていただくことを担当教員に依頼した。</p> <p>「データサイエンス入門」はGPの分布が0～4.5と広がっており、得意・不得意の差が現れた。しかしながら授業評価アンケートの学生の評価は高く、学生の満足度も高かったことから、授業の丁寧な取組が高い学修成果(単位修得率89.4%)につながったと認識している。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本学FD部会が実施する半期に一度の授業評価アンケートに数理・データサイエンス・AI教育プログラム独自の項目を追加し、細かな学習理解度や多面的な学修成果の把握を行っている。</p> <p>「キャンパスライフ入門」「データサイエンス入門」いずれにおいても、数学の基礎的な内容で学生の理解度が低下する傾向があった。次年度は授業内で適宜フォロー解説を入れるよう担当教員に依頼している。</p> <p>「キャンパスライフ入門」はオンデマンド授業であり、わからない箇所を何度も復習して見返せる点で好評であり、「データサイエンス入門」は、データサイエンス・アシスタントの導入により授業内でわからないことを聞ける点で好評であった。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>授業評価アンケートに数理・データサイエンス・AI教育プログラム独自の項目を追加し、「よかった点」を記載させている。</p> <p>「キャンパスライフ入門」においては、オンデマンド形式による柔軟な学習環境の提供と、幅広い分野の知識を得られる点で高い評価を得た。特に、リレー講義による多様な視点の提供や、学生自身のペースで学習できる点が好評であった。</p> <p>「データサイエンス入門」においては、全体として丁寧な指導、質問しやすい環境、実践的な学びに高評価が集まった。</p> <p>本学のプログラム設計上、新入生の必修科目としているため、アンケート等による他の学生への推奨度が及ぼす影響は少ないと考えている。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>「キャンパスライフ入門」および「データサイエンス入門」は必修としているため、休学者を除き、新入生の履修率は100%となる。全学的な履修率は毎年自動的にあがるプログラム設計となっており、令和5年度以前入学の学生についても、履修できるようにクラス編成を行っている。</p> <p>令和6年度のプログラム履修者数451名の内1年生が436名、2～4年生が15名であったことから、次年度3・4年生の履修を増やすため、履修登録前にポータルサイト・HP等でプログラムの意義を説明するPRを行っている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p data-bbox="185 181 440 210">学外からの視点</p> <p data-bbox="185 344 440 412">教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p data-bbox="185 674 440 741">産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p data-bbox="440 210 1426 277">本教育プログラムを修了した学生の情報をキャリアサポート部に共有し、進路先を把握する予定である。その内の数社、ご協力いただける企業にアンケートを実施し、活躍状況、評価について伺うことを検討している。現在本学のプログラム履修者は1年生が主となっていることから、主な進路先把握は2027(令和9)年度以降の予定である。</p> <p data-bbox="440 546 1426 636">プログラム開始初年度は、経営協議会の外部委員に対してプログラム内容・手法に関するご意見を伺った。今後は、本学学生向けの学内企業説明会に参加している企業に対してアンケートを実施し、教育プログラムの講義内容及び実データを活用した演習等の手法について意見を収集するとともに、数理・データサイエンス・AI教育推進部会においてプログラムの改善に活用する計画である。</p>
<p data-bbox="185 994 440 1061">数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p data-bbox="440 869 1426 981">データサイエンス入門では、実習形式を採用しており、最初に統計やプログラミング、AI等の説明をした後に、ExcelまたはGoogle Colab(Python)を用いたデータ分析等の実施、課題提出を行っている。また、より実践的な作業を経験させるため、オープンデータとして公開されている気象庁の観測データや世界の人口推移、パリオリンピックのメダル数等も用いて分析している。Pythonは未経験の学生が多いため、大学側でコードを用意することで、より複雑な処理がプログラミングで可能なことを体験的に伝えている。</p>
<p data-bbox="185 1240 440 1308">内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p data-bbox="185 1330 440 1487">※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p data-bbox="440 1196 1426 1308">キャンパスライフ入門ではオンデマンド講義を採用しており、学生は任意の時間に受講可能な環境を構築している。データサイエンス入門では、文系の学生を考慮して数式を用いた説明は最小限として、可能な限りグラフやイラストを用いた視覚的な資料を作成・配布している。また、実習で用いる関数等は資料に記載しており、聞き洩らした・欠席した学生が課題に取り込める工夫をしている。両講義において、AIの発展は迅速であるため、毎年最新の技術を収集して学生に伝えている。</p>

開講年度 (Year)	授業コード (Class Code)	シラバス番号 (Syllabus NO.)	授業形態 (Style of Class)		科目ナンバリング (Course Numbering Code)
2024	10400000	621	講義・遠隔		EDU-10-10400000
単位数 (Credit)		履修期間 (Semester)	曜日 (Day)	時限 (Period)	開講学部 (Department)
2.00 単位		前期	水	5	共通
職名 (Lecturer's Title)		教員名 (Lecturer's Name)			
専任教員		林 範彦、森谷 文利、藤井 隆雄、前村 奈央佳、関 陽介、山口 治彦、中村 嘉孝、芝 勝徳			
科目名 (Course Title)		キャンパスライフ入門 Introduction to Campus Life			授業名
科目区分 (Classification)		全学共通科目 (自然・人間科学領域)			
旧科目名 (Course Title)					旧授業名
旧区分 (Classification)					
履修制限 (Registration Restriction)					
外国語到達目標 (Foreign Language Objectives)					
主題と到達目標 (Theme and Objectives of Class)		<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、2024 年度の新入生全員を対象とする必修授業です。また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (KCUFS DASH)」を修了したい2~4 年生も履修する必要があります。 ・2023 年度以前に入学された方も履修登録・受講していただくことが可能です。 ・(主題) 大学における学びを効果的に進めるためには、様々な知識や技術、さらにはものの見方や規範等を新入生しく修得してゆくことが必要になります。そのうち初年次から不可欠になるもの、特に本年度から情報科学分野の基礎を中心に学修し、本学における学びの基礎的な資質を育てゆきます。なお各授業は本学の教職員が担当します。各回の授業タイトルのあとの()内がその回の担当者です。 ・(到達目標) 授業で扱われた本学での学びの基盤となる知識、技術、ものの見方や規範等を十分に理解し習得している。 			
評価の方法・基準 (Evaluation)		<ul style="list-style-type: none"> ・各授業への参加や指定された課題の提出状況から本授業の内容の理解度と習得度を総合的に判断し、合格した方に単位を認定します。 ・原則として全 15 回の授業すべてに参加し、かつ、各回定められた提出物を提出した受講生を成績評価の対象とします。 ・単位認定科目なので、単位を取得できた場合は「認定」となります。他の多くの科目のようにそれ以上の詳しい評価をすることはありません。 ・以上の詳細は初回ガイダンスで説明します。 			
履修にあたっての注意 (Information about Classwork)		<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度に入学した新入生入生全員の必修科目です。・受講生が多数に上るため、オンライン授業をする予定です。 ・各回の実施?時、オンライン授業の場合の受講法等は、別途、GAIDAI PASS を通じ履修登録者に連絡します。 ・2024 年度入学生への課題として、TOEIC IP の試験を受験していただきます。 			

	<p>スコアは評価に加味しませんが、課題として取り扱いますので受験の有無は評価に影響します。また「各学科での学び」の動画を視聴いただき、レポート課題を提出していただきます。・TOEIC IPの試験は1年生のみ受験していただきます。</p> <p>・「各学科での学び」動画のご視聴およびレポート課題は、1年生のみ対象です。</p> <p>・各回の内容はオンデマンドで提供されますが、GAIDAI PASSで指示される通り、指定された期間にかならず視聴してください。</p>
教科書 (Textbook)	
指定図書 (Reference Materials)	
講義内容 (Description and Schedule)	<p>4/10 (水) 第1回 ガイダンス (TOEIC IPの受験について/各学科での学びについて) (林 範彦)</p> <p>4/17 (水) 第2回 コンピュータ・ネットワーク活?法 メール、ソーシャルメディアの活用 (芝 勝徳)</p> <p>4/24 (水) 第3回 論文・レポートに関するマナー教育 (林 範彦)</p> <p>5/8 (水) 第4回 就職活動等キャリア形成への支援 (中村 嘉孝)</p> <p>5/15 (水) 第5回 社会における変化を捉える: データとは (前村 奈央佳)</p> <p>5/22 (水) 第6回 データを使った研究法の基礎 (前村 奈央佳)</p> <p>5/29 (水) 第7回 情報科学のための数学の基礎 (1) 1変数の記述統計 (森谷 文利)</p> <p>6/5 (水) 第8回 情報科学のための数学の基礎 (2) 仮説検定 (森谷 文利)</p> <p>6/12 (水) ;第9回 情報科学のための数学の基礎 (3) 2変数の統計: 共分散・相関係数 (藤井 隆雄)</p> <p>6/19 (水) ;第10回 経済学におけるデータ活用例 2変数の統計: 回帰分析 (最小二乗法) (藤井 隆雄)</p> <p>6/26 (水) ;第11回 言語学におけるデータ活用例 (山口 治彦、林 範彦)</p> <p>7/3 (水) 第12回 データ・AIの活用領域 人文科学におけるデータ活用例 (関 陽介、芝 勝徳)</p> <p>7/10 (水) 第13回 社会におけるAIの利活用 データ・AI利活用の最新入生動向 (関 陽介)</p> <p>7/17 (水) 第14回 データ・AIを扱う上での留意事項 (関 陽介)</p> <p>7/24 (水) 第15回 データを守る上での留意事項 (芝 勝徳)</p>
事前・事後学習 (Preparation & Review)	各回で示される課題などを通じて、特に事後の復習に努めてください。
使用言語 (Classroom Language) : 講義 Lecture	主として日本語。
使用言語 (Classroom Language) : 教材 Materials	主として日本語。

使用言語(Classroom Language) : テスト・課題・レポート (Test, Assignment, Reports)	テスト・課題・レポートについては、授業時の指示に従ってください。
使用言語(Classroom Language) : ディスカッション・プレゼン等 (Presentations, etc.)	主として日本語。
授業に関する実務経験 (Related Work Experience)	
ディプロマ・ポリシーとの関係 (Relationship to the Diploma Policy)	DP1 : 能動的に学ぶ力
備考 (Others)	

開講年度 (Year)	授業コード (Class Code)	シラバス番号 (Syllabus NO.)	授業形態 (Style of Class)		科目ナンバリング (Course Numbering Code)
2024	10170001	623	演習・対面		INF-10-10170001
単位数 (Credit)		履修期間 (Semester)	曜日 (Day)	時限 (Period)	開講学部 (Department)
2.00 単位		後期	月	4	学部
職名 (Lecturer's Title)		教員名 (Lecturer's Name)			
准教授		関 陽介			
科目名 (Course Title)		データサイエンス入門 : Introduction to Data Science			授業名 A
科目区分 (Classification)		全学共通科目 (自然・人間科学領域)			
旧科目名 (Course Title)					旧授業名 A
旧区分 (Classification)					
履修制限 (Registration Restriction)					
外国語到達目標 (Foreign Language Objectives)					
主題と到達目標 (Theme and Objectives of Class)		<p>本科目は 2024 年度の新入生入生全員を対象とする必修授業です。また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (KCUPS DASH)」を修了したい 2~4 年生も履修する必要があります。</p> <p>【主題】 現代社会では専門分野を問わず、データを処理するための統計学や人工知能、プログラミング等の知識や技術が求められています。この授業では講義と実習を通してこれらの基礎知識や技術を身につけることを目的とします。</p> <p>【到達目標】 ・データサイエンスの基礎知識や技術に関して説明することができる。 ・データサイエンスに関する実用的な手法を活用することができる。</p> <p>This is a compulsory class for all new students in 2024. 2nd to 4th year students who wish to complete the "KCUPS DASH" must also take this class.</p> <p>【Theme of this class】 In modern society, knowledge and skills such as statistics, artificial intelligence, and programming for processing data are required. The purpose of this class is to acquire these basic knowledge and skills through lectures and practical training.</p> <p>【Objectives of this class】 ・Be able to explain basic knowledge and techniques of data science. ・Be able to utilize practical methods related to data science.</p>			
評価の方法・基準 (Evaluation)		<p>1. 課題作成 : 最大 35 点</p> <p>2. 授業への取り組み状況 : 最大 35 点</p> <p>3. 期末試験 : 最大 30 点※上記の各項目における合計点で評価します。評価基準として合計点を 60 点以上取ることが単位取得として必要になります。</p>			
履修にあたっての注意 (Information about		この授業では講義と実習 (Excel・Python) を行い、プログラミング環境は Google Colaboratory を使用します。生成 AI に触れるために無償のサービスも利用する			

Classwork)	予定です。
教科書 (Textbook)	教科書はありませんが講義で使用するスライドは履修者に限定して公開する予定です。
指定図書 (Reference Materials)	
講義内容 (Description and Schedule)	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 データサイエンスについて 3 データの要約 1 (最大・最小, 平均, 中央値等) 4 データの要約 2 (範囲, 四部位点, 標準偏差等) 5 データの比較 (共分散, 相関関係, 散布図等) 6 データの可視化 7 確率と検定 8 モデリング 9 データ分析の応用 10 プログラミング 11 AI について 12 生成 AI の紹介 13 自然言語処理 14 画像認識 15 期末試験とまとめ・解説
事前・事後学習 (Preparation & Review)	事前学習は特に必要ありませんが、この授業で扱う内容の多くは研究活動や社会で必ず求められる知識や技術であるため、不明点があれば復習をしてください。
使用言語 (Classroom Language) : 講義 Lecture	日本語
使用言語 (Classroom Language) : 教材 Materials	日本語
使用言語 (Classroom Language) : テスト・課題・レポート (Test, Assignment, Reports)	テスト・課題・レポートについては、授業時の指示に従ってください。
使用言語 (Classroom Language) : ディスカッション・プレゼン等 (Presentations, etc.)	日本語
授業に関する実務経験 (Related Work Experience)	プログラミングや人工知能の技術を用いてシステム開発や運用を長年行ってきたため、特に情報処理に関する実務経験が豊富です。
ディプロマ・ポリシーとの関係 (Relationship to the Diploma Policy)	DP1 : 能動的に学ぶ力
備考 (Others)	

開講年度 (Year)	授業コード (Class Code)	シラバス番号 (Syllabus NO.)	授業形態 (Style of Class)		科目ナンバリング (Course Numbering Code)
2024	10170002	624	演習・対面		INF-10-10170002
単位数 (Credit)		履修期間 (Semester)	曜日 (Day)	時限 (Period)	開講学部 (Department)
2.00 単位		後期	月	5	学部
職名 (Lecturer's Title)		教員名 (Lecturer's Name)			
准教授		関 陽介			
科目名 (Course Title)		データサイエンス入門 : Introduction to Data Science			授業名 B
科目区分 (Classification)		全学共通科目 (自然・人間科学領域)			
旧科目名 (Course Title)					旧授業名 B
旧区分 (Classification)					
履修制限 (Registration Restriction)					
外国語到達目標 (Foreign Language Objectives)					
主題と到達目標 (Theme and Objectives of Class)		<p>本科目は 2024 年度の新入生全員を対象とする必修授業です。また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (KCUPS DASH)」を修了したい 2~4 年生も履修する必要があります。</p> <p>【主題】 現代社会では専門分野を問わず、データを処理するための統計学や人工知能、プログラミング等の知識や技術が求められています。この授業では講義と実習を通してこれらの基礎知識や技術を身につけることを目的とします。</p> <p>【到達目標】 ・データサイエンスの基礎知識や技術に関して説明することができる。 ・データサイエンスに関する実用的な手法を活用することができる。</p> <p>This is a compulsory class for all new students in 2024. 2nd to 4th year students who wish to complete the "KCUPS DASH" must also take this class.</p> <p>【Theme of this class】 In modern society, knowledge and skills such as statistics, artificial intelligence, and programming for processing data are required. The purpose of this class is to acquire these basic knowledge and skills through lectures and practical training.</p> <p>【Objectives of this class】 ・Be able to explain basic knowledge and techniques of data science. ・Be able to utilize practical methods related to data science.</p>			
評価の方法・基準 (Evaluation)		<p>1. 課題作成 : 最大 35 点</p> <p>2. 授業への取り組み状況 : 最大 35 点</p> <p>3. 期末試験 : 最大 30 点※上記の各項目における合計点で評価します。評価基準として合計点を 60 点以上取ることが単位取得として必要になります。</p>			
履修にあたっての注意 (Information about		この授業では講義と実習 (Excel・Python) を行い、プログラミング環境は Google Colaboratory を使用します。生成 AI に触れるために無償のサービスも利用する			

Classwork)	予定です。
教科書 (Textbook)	教科書はありませんが講義で使用するスライドは履修者に限定して公開する予定です。
指定図書 (Reference Materials)	
講義内容 (Description and Schedule)	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 データサイエンスについて 3 データの要約 1 (最大・最小, 平均, 中央値等) 4 データの要約 2 (範囲, 四部位点, 標準偏差等) 5 データの比較 (共分散, 相関関係, 散布図等) 6 データの可視化 7 確率と検定 8 モデリング 9 データ分析の応用 10 プログラミング 11 AI について 12 生成 AI の紹介 13 自然言語処理 14 画像認識 15 期末試験とまとめ・解説
事前・事後学習 (Preparation & Review)	事前学習は特に必要ありませんが、この授業で扱う内容の多くは研究活動や社会で必ず求められる知識や技術であるため、不明点があれば復習をしてください。
使用言語 (Classroom Language) : 講義 Lecture	日本語
使用言語 (Classroom Language) : 教材 Materials	日本語
使用言語 (Classroom Language) : テスト・課題・レポート (Test, Assignment, Reports)	テスト・課題・レポートについては、授業時の指示に従ってください。
使用言語 (Classroom Language) : ディスカッション・プレゼン等 (Presentations, etc.)	日本語
授業に関する実務経験 (Related Work Experience)	プログラミングや人工知能の技術を用いてシステム開発や運用を長年行ってきたため、特に情報処理に関する実務経験が豊富です。
ディプロマ・ポリシーとの関係 (Relationship to the Diploma Policy)	DP1 : 能動的に学ぶ力
備考 (Others)	

開講年度 (Year)	授業コード (Class Code)	シラバス番号 (Syllabus NO.)	授業形態 (Style of Class)		科目ナンバリング (Course Numbering Code)
2024	10170003	625	演習・対面		INF-10-10170003
単位数 (Credit)		履修期間 (Semester)	曜日 (Day)	時限 (Period)	開講学部 (Department)
2.00 単位		後期	金	5	学部
職名 (Lecturer's Title)		教員名 (Lecturer's Name)			
准教授		関 陽介			
科目名 (Course Title)		データサイエンス入門 : Introduction to Data Science			授業名 C
科目区分 (Classification)		全学共通科目 (自然・人間科学領域)			
旧科目名 (Course Title)					旧授業名 C
旧区分 (Classification)					
履修制限 (Registration Restriction)					
外国語到達目標 (Foreign Language Objectives)					
主題と到達目標 (Theme and Objectives of Class)		<p>本科目は 2024 年度の新入生全員を対象とする必修授業です。また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (KCUPS DASH)」を修了したい 2~4 年生も履修する必要があります。</p> <p>【主題】 現代社会では専門分野を問わず、データを処理するための統計学や人工知能、プログラミング等の知識や技術が求められています。この授業では講義と実習を通してこれらの基礎知識や技術を身につけることを目的とします。</p> <p>【到達目標】 ・データサイエンスの基礎知識や技術に関して説明することができる。 ・データサイエンスに関する実用的な手法を活用することができる。</p> <p>This is a compulsory class for all new students in 2024. 2nd to 4th year students who wish to complete the "KCUPS DASH" must also take this class.</p> <p>【Theme of this class】 In modern society, knowledge and skills such as statistics, artificial intelligence, and programming for processing data are required. The purpose of this class is to acquire these basic knowledge and skills through lectures and practical training.</p> <p>【Objectives of this class】 ・Be able to explain basic knowledge and techniques of data science. ・Be able to utilize practical methods related to data science.</p>			
評価の方法・基準 (Evaluation)		<p>1. 課題作成 : 最大 35 点</p> <p>2. 授業への取り組み状況 : 最大 35 点</p> <p>3. 期末試験 : 最大 30 点※上記の各項目における合計点で評価します。評価基準として合計点を 60 点以上取ることが単位取得として必要になります。</p>			
履修にあたっての注意 (Information about		この授業では講義と実習 (Excel・Python) を行い、プログラミング環境は Google Colaboratory を使用します。生成 AI に触れるために無償のサービスも利用する			

Classwork)	予定です。
教科書 (Textbook)	教科書はありませんが講義で使用するスライドは履修者に限定して公開する予定です。
指定図書 (Reference Materials)	
講義内容 (Description and Schedule)	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 データサイエンスについて 3 データの要約 1 (最大・最小, 平均, 中央値等) 4 データの要約 2 (範囲, 四部位点, 標準偏差等) 5 データの比較 (共分散, 相関関係, 散布図等) 6 データの可視化 7 確率と検定 8 モデリング 9 データ分析の応用 10 プログラミング 11 AI について 12 生成 AI の紹介 13 自然言語処理 14 画像認識 15 期末試験とまとめ・解説
事前・事後学習 (Preparation & Review)	事前学習は特に必要ありませんが、この授業で扱う内容の多くは研究活動や社会で必ず求められる知識や技術であるため、不明点があれば復習をしてください。
使用言語 (Classroom Language) : 講義 Lecture	日本語
使用言語 (Classroom Language) : 教材 Materials	日本語
使用言語 (Classroom Language) : テスト・課題・レポート (Test, Assignment, Reports)	テスト・課題・レポートについては、授業時の指示に従ってください。
使用言語 (Classroom Language) : ディスカッション・プレゼン等 (Presentations, etc.)	日本語
授業に関する実務経験 (Related Work Experience)	プログラミングや人工知能の技術を用いてシステム開発や運用を長年行ってきたため、特に情報処理に関する実務経験が豊富です。
ディプロマ・ポリシーとの関係 (Relationship to the Diploma Policy)	DP1 : 能動的に学ぶ力
備考 (Others)	

開講年度 (Year)	授業コード (Class Code)	シラバス番号 (Syllabus NO.)	授業形態 (Style of Class)		科目ナンバリング (Course Numbering Code)
2024	10170004	626	演習・対面		INF-10-10170004
単位数 (Credit)		履修期間 (Semester)	曜日 (Day)	時限 (Period)	開講学部 (Department)
2.00 単位		後期	金	4	学部
職名 (Lecturer's Title)		教員名 (Lecturer's Name)			
准教授		関 陽介			
科目名 (Course Title)		データサイエンス入門 : Introduction to Data Science			授業名 D
科目区分 (Classification)		全学共通科目 (自然・人間科学領域)			
旧科目名 (Course Title)					旧授業名 D
旧区分 (Classification)					
履修制限 (Registration Restriction)					
外国語到達目標 (Foreign Language Objectives)					
主題と到達目標 (Theme and Objectives of Class)		<p>本科目は 2024 年度の新入生全員を対象とする必修授業です。また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (KCUPS DASH)」を修了したい 2~4 年生も履修する必要があります。</p> <p>【主題】 現代社会では専門分野を問わず、データを処理するための統計学や人工知能、プログラミング等の知識や技術が求められています。この授業では講義と実習を通してこれらの基礎知識や技術を身につけることを目的とします。</p> <p>【到達目標】 ・データサイエンスの基礎知識や技術に関して説明することができる。 ・データサイエンスに関する実用的な手法を活用することができる。</p> <p>This is a compulsory class for all new students in 2024. 2nd to 4th year students who wish to complete the "KCUPS DASH" must also take this class.</p> <p>【Theme of this class】 In modern society, knowledge and skills such as statistics, artificial intelligence, and programming for processing data are required. The purpose of this class is to acquire these basic knowledge and skills through lectures and practical training.</p> <p>【Objectives of this class】 ・Be able to explain basic knowledge and techniques of data science. ・Be able to utilize practical methods related to data science.</p>			
評価の方法・基準 (Evaluation)		<p>1. 課題作成 : 最大 35 点</p> <p>2. 授業への取り組み状況 : 最大 35 点</p> <p>3. 期末試験 : 最大 30 点※上記の各項目における合計点で評価します。評価基準として合計点を 60 点以上取ることが単位取得として必要になります。</p>			
履修にあたっての注意 (Information about		この授業では講義と実習 (Excel・Python) を行い、プログラミング環境は Google Colaboratory を使用します。生成 AI に触れるために無償のサービスも利用する			

Classwork)	予定です。
教科書 (Textbook)	教科書はありませんが講義で使用するスライドは履修者に限定して公開する予定です。
指定図書 (Reference Materials)	
講義内容 (Description and Schedule)	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 データサイエンスについて 3 データの要約 1 (最大・最小, 平均, 中央値等) 4 データの要約 2 (範囲, 四部位点, 標準偏差等) 5 データの比較 (共分散, 相関関係, 散布図等) 6 データの可視化 7 確率と検定 8 モデリング 9 データ分析の応用 10 プログラミング 11 AI について 12 生成 AI の紹介 13 自然言語処理 14 画像認識 15 期末試験とまとめ・解説
事前・事後学習 (Preparation & Review)	事前学習は特に必要ありませんが、この授業で扱う内容の多くは研究活動や社会で必ず求められる知識や技術であるため、不明点があれば復習をしてください。
使用言語 (Classroom Language) : 講義 Lecture	日本語
使用言語 (Classroom Language) : 教材 Materials	日本語
使用言語 (Classroom Language) : テスト・課題・レポート (Test, Assignment, Reports)	テスト・課題・レポートについては、授業時の指示に従ってください。
使用言語 (Classroom Language) : ディスカッション・プレゼン等 (Presentations, etc.)	日本語
授業に関する実務経験 (Related Work Experience)	プログラミングや人工知能の技術を用いてシステム開発や運用を長年行ってきたため、特に情報処理に関する実務経験が豊富です。
ディプロマ・ポリシーとの関係 (Relationship to the Diploma Policy)	DP1 : 能動的に学ぶ力
備考 (Others)	

開講年度 (Year)	授業コード (Class Code)	シラバス番号 (Syllabus NO.)	授業形態 (Style of Class)		科目ナンバリング (Course Numbering Code)
2024	10170005	1429	演習・対面		INF-10-10170005
単位数 (Credit)		履修期間 (Semester)	曜日 (Day)	時限 (Period)	開講学部 (Department)
2.00 単位		後期	木	6	第 2 部
職名 (Lecturer's Title)		教員名 (Lecturer's Name)			
准教授		関 陽介			
科目名 (Course Title)		データサイエンス入門 : Introduction to Data Science			授業名 E
科目区分 (Classification)		全学共通科目 (自然・人間科学領域)			
旧科目名 (Course Title)					旧授業名 E
旧区分 (Classification)					
履修制限 (Registration Restriction)					
外国語到達目標 (Foreign Language Objectives)					
主題と到達目標 (Theme and Objectives of Class)		<p>本科目は 2024 年度の新入生全員を対象とする必修授業です。また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (KCUPS DASH)」を修了したい 2~4 年生も履修する必要があります。</p> <p>【主題】 現代社会では専門分野を問わず、データを処理するための統計学や人工知能、プログラミング等の知識や技術が求められています。この授業では講義と実習を通してこれらの基礎知識や技術を身につけることを目的とします。</p> <p>【到達目標】 ・データサイエンスの基礎知識や技術に関して説明することができる。 ・データサイエンスに関する実用的な手法を活用することができる。</p> <p>This is a compulsory class for all new students in 2024. 2nd to 4th year students who wish to complete the "KCUPS DASH" must also take this class.</p> <p>【Theme of this class】 In modern society, knowledge and skills such as statistics, artificial intelligence, and programming for processing data are required. The purpose of this class is to acquire these basic knowledge and skills through lectures and practical training.</p> <p>【Objectives of this class】 ・Be able to explain basic knowledge and techniques of data science. ・Be able to utilize practical methods related to data science.</p>			
評価の方法・基準 (Evaluation)		<p>1. 課題作成 : 最大 35 点</p> <p>2. 授業への取り組み状況 : 最大 35 点</p> <p>3. 期末試験 : 最大 30 点※上記の各項目における合計点で評価します。評価基準として合計点を 60 点以上取ることが単位取得として必要になります。</p>			
履修にあたっての注意 (Information about		この授業では講義と実習 (Excel・Python) を行い、プログラミング環境は Google Colaboratory を使用します。生成 AI に触れるために無償のサービスも利用する			

Classwork)	予定です。
教科書 (Textbook)	教科書はありませんが講義で使用するスライドは履修者に限定して公開する予定です。
指定図書 (Reference Materials)	
講義内容 (Description and Schedule)	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 データサイエンスについて 3 データの要約 1 (最大・最小, 平均, 中央値等) 4 データの要約 2 (範囲, 四部位点, 標準偏差等) 5 データの比較 (共分散, 相関関係, 散布図等) 6 データの可視化 7 確率と検定 8 モデリング 9 データ分析の応用 10 プログラミング 11 AI について 12 生成 AI の紹介 13 自然言語処理 14 画像認識 15 期末試験とまとめ・解説
事前・事後学習 (Preparation & Review)	事前学習は特に必要ありませんが、この授業で扱う内容の多くは研究活動や社会で必ず求められる知識や技術であるため、不明点があれば復習をしてください。
使用言語 (Classroom Language) : 講義 Lecture	日本語
使用言語 (Classroom Language) : 教材 Materials	日本語
使用言語 (Classroom Language) : テスト・課題・レポート (Test, Assignment, Reports)	テスト・課題・レポートについては、授業時の指示に従ってください。
使用言語 (Classroom Language) : ディスカッション・プレゼン等 (Presentations, etc.)	日本語
授業に関する実務経験 (Related Work Experience)	プログラミングや人工知能の技術を用いてシステム開発や運用を長年行ってきたため、特に情報処理に関する実務経験が豊富です。
ディプロマ・ポリシーとの関係 (Relationship to the Diploma Policy)	DP1 : 能動的に学ぶ力
備考 (Others)	

開講年度 (Year)	授業コード (Class Code)	シラバス番号 (Syllabus NO.)	授業形態 (Style of Class)		科目ナンバリング (Course Numbering Code)
2024	10170006	627	演習・対面		INF-10-10170006
単位数 (Credit)		履修期間 (Semester)	曜日 (Day)	時限 (Period)	開講学部 (Department)
2.00 単位		後期	金	3	学部
職名 (Lecturer's Title)		教員名 (Lecturer's Name)			
准教授		関 陽介			
科目名 (Course Title)		データサイエンス入門 Introduction to Data Science			授業名 F
科目区分 (Classification)		全学共通科目 (自然・人間科学領域)			
旧科目名 (Course Title)					旧授業名 F
旧区分 (Classification)					
履修制限 (Registration Restriction)					
外国語到達目標 (Foreign Language Objectives)					
主題と到達目標 (Theme and Objectives of Class)		<p>本科目は 2024 年度の新入生全員を対象とする必修授業です。また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (KCUPS DASH)」を修了したい 2~4 年生も履修する必要があります。</p> <p>【主題】 現代社会では専門分野を問わず、データを処理するための統計学や人工知能、プログラミング等の知識や技術が求められています。この授業では講義と実習を通してこれらの基礎知識や技術を身につけることを目的とします。</p> <p>【到達目標】 ・データサイエンスの基礎知識や技術に関して説明することができる。 ・データサイエンスに関する実用的な手法を活用することができる。</p> <p>This is a compulsory class for all new students in 2024. 2nd to 4th year students who wish to complete the "KCUPS DASH" must also take this class.</p> <p>【Theme of this class】 In modern society, knowledge and skills such as statistics, artificial intelligence, and programming for processing data are required. The purpose of this class is to acquire these basic knowledge and skills through lectures and practical training.</p> <p>【Objectives of this class】 ・Be able to explain basic knowledge and techniques of data science. ・Be able to utilize practical methods related to data science.</p>			
評価の方法・基準 (Evaluation)		<p>1. 課題作成：最大 35 点</p> <p>2. 授業への取り組み状況：最大 35 点</p> <p>3. 期末試験：最大 30 点※上記の各項目における合計点で評価します。評価基準として合計点を 60 点以上取ることが単位取得として必要になります。</p>			
履修にあたっての注意 (Information about		この授業では講義と実習 (Excel・Python) を行い、プログラミング環境は Google Colaboratory を使用します。生成 AI に触れるために無償のサービスも利用する			

Classwork)	予定です。
教科書 (Textbook)	教科書はありませんが講義で使用するスライドは履修者に限定して公開する予定です。
指定図書 (Reference Materials)	
講義内容 (Description and Schedule)	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 データサイエンスについて 3 データの要約 1 (最大・最小, 平均, 中央値等) 4 データの要約 2 (範囲, 四部位点, 標準偏差等) 5 データの比較 (共分散, 相関関係, 散布図等) 6 データの可視化 7 確率と検定 8 モデリング 9 データ分析の応用 10 プログラミング 11 AI について 12 生成 AI の紹介 13 自然言語処理 14 画像認識 15 期末試験とまとめ・解説
事前・事後学習 (Preparation & Review)	事前学習は特に必要ありませんが、この授業で扱う内容の多くは研究活動や社会で必ず求められる知識や技術であるため、不明点があれば復習をしてください。
使用言語 (Classroom Language) : 講義 Lecture	日本語
使用言語 (Classroom Language) : 教材 Materials	日本語
使用言語 (Classroom Language) : テスト・課題・レポート (Test, Assignment, Reports)	テスト・課題・レポートについては、授業時の指示に従ってください。
使用言語 (Classroom Language) : ディスカッション・プレゼン等 (Presentations, etc.)	日本語
授業に関する実務経験 (Related Work Experience)	プログラミングや人工知能の技術を用いてシステム開発や運用を長年行ってきたため、特に情報処理に関する実務経験が豊富です。
ディプロマ・ポリシーとの関係 (Relationship to the Diploma Policy)	DP1 : 能動的に学ぶ力
備考 (Others)	

開講年度 (Year)	授業コード (Class Code)	シラバス番号 (Syllabus NO.)	授業形態 (Style of Class)		科目ナンバリング (Course Numbering Code)	
2024	10170007	1430	演習・対面		INF-10-10170007	
単位数 (Credit)		履修期間 (Semester)	曜日 (Day)	時限 (Period)	開講学部 (Department)	
2.00 単位		後期	木	7	第 2 部	
職名 (Lecturer's Title)		教員名 (Lecturer's Name)				
准教授		関 陽介				
科目名 (Course Title)		データサイエンス入門 ; Introduction to Data Science			授業名	G
科目区分 (Classification)		全学共通科目 (自然・人間科学領域)				
旧科目名 (Course Title)					旧授業名	G
旧区分 (Classification)						
履修制限 (Registration Restriction)						
外国語到達目標 (Foreign Language Objectives)						
主題と到達目標 (Theme and Objectives of Class)		<p>本科目は 2024 年度の新入生全員を対象とする必修授業です。また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (KCUPS DASH)」を修了したい 2~4 年生も履修する必要があります。</p> <p>【主題】 現代社会では専門分野を問わず、データを処理するための統計学や人工知能、プログラミング等の知識や技術が求められています。この授業では講義と実習を通してこれらの基礎知識や技術を身につけることを目的とします。</p> <p>【到達目標】 ・データサイエンスの基礎知識や技術に関して説明することができる。 ・データサイエンスに関する実用的な手法を活用することができる。</p> <p>This is a compulsory class for all new students in 2024. 2nd to 4th year students who wish to complete the "KCUPS DASH" must also take this class.</p> <p>【Theme of this class】 In modern society, knowledge and skills such as statistics, artificial intelligence, and programming for processing data are required. The purpose of this class is to acquire these basic knowledge and skills through lectures and practical training.</p> <p>【Objectives of this class】 ・Be able to explain basic knowledge and techniques of data science. ・Be able to utilize practical methods related to data science.</p>				
評価の方法・基準 (Evaluation)		<p>1. 課題作成 : 最大 35 点</p> <p>2. 授業への取り組み状況 : 最大 35 点</p> <p>3. 期末試験 : 最大 30 点※上記の各項目における合計点で評価します。評価基準として合計点を 60 点以上取ることが単位取得として必要になります。</p>				
履修にあたっての注意 (Information about		この授業では講義と実習 (Excel・Python) を行い、プログラミング環境は Google Colaboratory を使用します。生成 AI に触れるために無償のサービスも利用する				

Classwork)	予定です。
教科書 (Textbook)	教科書はありませんが講義で使用するスライドは履修者に限定して公開する予定です。
指定図書 (Reference Materials)	
講義内容 (Description and Schedule)	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 データサイエンスについて 3 データの要約 1 (最大・最小, 平均, 中央値等) 4 データの要約 2 (範囲, 四部位点, 標準偏差等) 5 データの比較 (共分散, 相関関係, 散布図等) 6 データの可視化 7 確率と検定 8 モデリング 9 データ分析の応用 10 プログラミング 11 AI について 12 生成 AI の紹介 13 自然言語処理 14 画像認識 15 期末試験とまとめ・解説
事前・事後学習 (Preparation & Review)	事前学習は特に必要ありませんが、この授業で扱う内容の多くは研究活動や社会で必ず求められる知識や技術であるため、不明点があれば復習をしてください。
使用言語 (Classroom Language) : 講義 Lecture	日本語
使用言語 (Classroom Language) : 教材 Materials	日本語
使用言語 (Classroom Language) : テスト・課題・レポート (Test, Assignment, Reports)	テスト・課題・レポートについては、授業時の指示に従ってください。
使用言語 (Classroom Language) : ディスカッション・プレゼン等 (Presentations, etc.)	日本語
授業に関する実務経験 (Related Work Experience)	プログラミングや人工知能の技術を用いてシステム開発や運用を長年行ってきたため、特に情報処理に関する実務経験が豊富です。
ディプロマ・ポリシーとの関係 (Relationship to the Diploma Policy)	DP1 : 能動的に学ぶ力
備考 (Others)	

履修の手引き

2024年度入学者用



Kobe City University of Foreign Studies

神戸市外国語大学

目 次

I 履修の手引き

1	授業時間	2
2	必修科目／選択科目	2
3	単位制度	2
4	履修登録	3
5	コース制度	5
6	科目の概要	6
7	成績評価・成績発表	8
8	GPA制度	9
9	試験・レポート	10
10	授業の欠席 (公休・欠席届・出席に関する条件)	12
11	単位認定	13
12	交通機関の運休、気象警報等の発令に よる授業及び定期試験の取扱い	16
13	教育職員免許状の取得	17
14	小学校教員免許状の取得	19
15	日本語学課程の履修	19
16	司書課程の履修	20
17	学校図書館司書教諭課程の履修	20

II 履修の指針

1	神戸市外国語大学の理念と目標	21
2	ディプロマ・ポリシー	21
3	カリキュラム・ポリシー	22
4	カリキュラム・マップ	24
5	科目ナンバリング	26
6	カリキュラム概要	28
7	英米学科	30
8	ロシア学科	36
9	中国学科	41
10	イスパニア学科	47
11	国際関係学科	52
12	第2部英米学科	59

III 規則集

学則・諸規則等	70
神戸市外国語大学外国語学部 履修規則	73
神戸市外国語大学外国語学部 第2部履修規則	90
教育職員養成課程の履修に関する規則	100
日本語学課程の履修に関する規則	106
司書課程に関する履修規則	108
学校図書館司書教諭課程に関する履修規則	108
神戸市外国語大学テーマ研究プログラムに 関する履修規則	109
神戸市外国語大学数理・データサイエンス・ AI教育プログラム(KCUFS-DASH)に関す る履修規則	109
神戸市外国語大学試験に関する規則	109
学生の公休に関する規程	110
神戸市外国語大学外国語学部 履修登録単位の上限に関する規則	110
その他	110

IV 教室等配置図

本部棟・学舎	111
第2学舎	112
共同研究棟	113
研究棟	114
第2研究棟	115
大ホール	115
図書館	116
体育館	116
学生会館	117
部室会館	117

【英米学科履修科目】

必修科目	A	学科専攻語学	I階程：英語 12単位 [通年5科目、半期2科目] 講読 [1]・[2]・[3]・作文・会話・文法 [半期1単位]・発音 [半期1単位]	II階程：英語 12単位 [通年6科目] 講読 [1]・[2]・[3]・作文・会話・総合英語	44
			III階程：英語 12単位 [通年3科目] 講読 ([1]・[2]・[3]より2科目選択)・会話	IV階程：英語 8単位 [通年2科目] 講読 ([1]・[2]・[3]より1科目選択)・作文	
B	兼修語学	必修語学	I階程：4単位 [通年2科目 [1]・[2]] 一括認定 II階程：4単位 [通年2科目 [1]・[2]]	ロシア語、中国語、イスパニア語、フランス語、ドイツ語	[1言語選択] 8
		自由選択語学	イタリア語Ⅰ・Ⅱ、ポルトガル語Ⅰ・Ⅱ、インドネシア語、朝鮮語Ⅰ・Ⅱ、エスペラント語、東洋諸語 } [各通年2単位] ロシア語Ⅲ、中国語Ⅲ、イスパニア語Ⅲ、フランス語Ⅲ、ドイツ語Ⅲ、東欧諸語1～4 } [各半期1単位]	◆	
C		学科基礎科目 (英米学科)	英国史、英国の文化、米国学、米国の文化、英国の社会1・2、米国の社会1・2、英語圏の文化と社会1・2、英文学史1・2、米文学史1・2、英語学概論1・2、英語研究入門1・2	12	
D	全学共通科目	人文領域	宗教学入門、哲学概論、日本思想史、仏教学、倫理学入門、ジェンダー論入門、社会学入門、アメリカ地域論、ヨーロッパ地域論入門、西洋史、東洋史入門、日本史入門、歴史学入門、言語学入門、日本語学概論1・2、日本文学論入門、日本文化入門、近現代日本社会入門、言語学基礎論1・2、音声学1・2、古典語(ラテン語)1・2、海外派遣留学科目1～4、海外協定校短期研修1・2、中東欧研究入門1～4 [各半期1単位]、海外認定校提供科目A	16	
		社会科学領域	憲法1・2、現代の法、現代の政治、地域経済と企業、現代日本経済論1・2、経営学入門、現代国際法政問題、現代国際経済問題、現代国際文化問題、インターンシップ(就業体験)1・2 [各半期1単位]、現代の企業経営、国際ビジネス・コミュニケーション、ビジネスロシア語1・2、ビジネス中国語1・2、商業イスパニア語1・2、現代世界経済論1・2、社会開発論、社会人類学入門		
		自然・人間科学領域	自然の認識1・2、東の科学、西の科学、数理の世界1・2、情報科学概論1～3、人権論、人権教育、環境と人間、人間形成論入門、社会心理学入門1・2、臨床心理学入門1・2、生涯教育論1・2、児童英語教育、スポーツ方法1・2 [各半期1単位]、教育原理、教育哲学、教育史、神戸・教育インターンシップ1～3 [各半期1単位]、キャリアデザイン、ジャーナリズム論1、キャンパスライフ入門、データサイエンス入門		
E	選択科目	全てのコースでコース科目として認定される	模擬国連 [コース科目への認定は1回限り。2回目以降は自由選択単位となる。]		
		語学文学	基礎 英米文学・文化研究入門、英米文学と視覚文化、英米文学と社会、比較文学、現代の思想と文化、英語史1・2、音声学・音韻論講義、統語論講義、意味論講義、語用論・談話分析講義、応用言語学1・2、構文研究、語法文法研究、文学翻訳演習、通訳演習1・2、メディア英語演習1・2、リスニング分析1・2、オーラル・プレゼンテーション1、通訳(基礎)、会議通訳(逐次)、翻訳、パブリック・スピーチ、映画研究、翻訳理論、メディア論、英語学特殊講義(現代社会)1～4、社会言語学、小学校英語教育論	20	
		発展	英米文学特殊講義、イギリス文学特殊講義、アメリカ文学特殊講義、英語圏文学特殊講義、英詩・演劇特殊講義、英米文化特殊講義、英語学特殊講義、イギリス文学研究演習1・2、アメリカ文学研究演習1・2、英語圏文学研究演習、英米文化研究演習、Advanced Writing1・2、英語学研究演習1・2、英語教育学演習、オーラル・プレゼンテーション2、放送通訳、会議通訳(同時)、小学校英語教育論演習		
		国際法政	基礎 民法1・2、政治学1・2、国際政治学1・2、比較政治1・2、国際法「基本」1・2、国際政治経済学、アジア国際関係史1・2、アメリカ政治1、中国法政論、社会学、ロシアの社会2、移民社会論、統計学1・2、文化と政治、ロシア政治経済論1・2	20	
		発展	民法3～5、行政法1・2、国際取引法1・2、法政特論1・2、途上国地域社会論1・2、国際紛争処理法、国際法「発展」1・2、国際私法1・2、ヨーロッパ政治1・2、アフリカ政治1・2、アメリカ政治2、移民社会論演習、ゲーム理論、比較地域研究1・2、東南アジア地域論：政治、商法1・2、労働法、東南アジア地域論特殊講義：政治		
		経済経営	基礎 ミクロ経済学1・2、マクロ経済学1・2、簿記原理、経営学1・2、神戸研究、近代世界システム成立史、統計学1・2、ロシア政治経済論1・2	20	
		発展	国際経営論1・2、ミクロ経済政策1・2、マクロ経済政策1・2、産業組織の経済学1・2、経済学演習1・2、経済学特殊講義1～4、経営学特殊講義1～4、会計学1・2、マーケティング論1・2、国際商務論1・2、商業英語1・2、国際金融論1・2、国際貿易論、貿易政策論、開発経済論1・2、多国籍企業論1・2、金融論1・2、財政学1・2、公共政策、労働経済、計量経済学1・2、商法1・2、労働法、ゲーム理論、東南アジア地域論：経済、東南アジア地域論特殊講義：経済		
		多文化共生	基礎 宗教と社会の共生、ヨーロッパ地域論、移民社会論、朝鮮文化論1、外国人学習者の観点から見た日本語、日本語の形と意味、日本語の多様性、民族誌学1、近現代日本社会、アジアの文化と社会の共生1・2、アジア言語文化の諸問題、フランスの思想と社会1、出版と編集1、コミュニケーション概論、コミュニケーション理論、言語と国家、社会人類学、コミュニケーション論、異文化間コミュニケーション論、英米文学特殊講義(現代社会)1・2、英語学特殊講義(現代社会)1～4、バリアフリー論、日本語話、ロシア文化特殊講義1、中国文化特殊講義2、ラテンアメリカ文化特殊講義1・2、社会調査分析1・2、文化と政治、環境論1	20	
		発展	フランスの社会、朝鮮文化論2、民族誌学2、日本語の談話研究、日本語変異の研究、近現代日本社会研究1・2、言語文化の多様性とアジア1・2、フランスの思想と社会2、出版と編集2、コミュニケーション研究、言語と文化、社会人類学研究、ジェンダー共生論演習、社会共生論演習、プロジェクト演習、東南アジアの社会と文化、比較地域研究1・2、東南アジア地域論：経済、東南アジア地域論：政治、東南アジア地域論特殊講義：経済、東南アジア地域論特殊講義：政治、ロシア文化特殊講義2、中国文化特殊講義4、移民社会論演習、環境論2		
		リベラルアーツ	基礎 宗教学基礎論、西洋哲学史、倫理学、フランス文化論1、ヨーロッパ文化史1、ヨーロッパ文化論1、ヨーロッパ文学論、東洋史、日本史、日本文学論、言語類型論、歴史言語学、古典語(ギリシャ語)1・2、日本語教育の基礎、人間形成論、日本語の文法、日本語の音声、日本の文化、西洋古典学1、哲学、自然科学(基礎)1・2、人間関係論1・2、スポーツ文化論1・2、中欧文化史1、ヨーロッパにおけるドイツ1、フランス文学論1、ジェンダー論、文化芸術論1、社会学、小学校英語教育論、社会調査分析1・2	20	
発展	フランス文化論2、ヨーロッパ文化史2、ヨーロッパ文化論2、日本文化の諸相1・2、言語学研究1・2、小学校英語教育論演習、社会言語学、西洋古典学2、西洋史研究1・2、アジア言語文化1・2、歴史学特殊講義、自然科学(発展)1・2、スポーツ文化論演習「第1」1・2、スポーツ文化論演習「第2」1・2、一般言語学から見た日本語、日本語の統語論的研究、日本語の意味・機能研究、日本語音声・音韻の研究、日本文化研究1・2、アジア言語学1・2、哲学特殊講義1・2、中欧文化史2、ヨーロッパにおけるドイツ2、フランス文学論2、社会心理学演習1・2、臨床心理学演習1・2、現代文明論、文化芸術論2				
F	研究指導、卒業論文	研究指導〔必修〕[通年4単位][通年4単位]、卒業論文〔半期8単位〕 (卒業論文は自由選択。卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければなりません。)	16		
G	自由選択単位	属する学科の必修科目及び選択科目の卒業必要単位数を超過して取得した単位および自由選択語学で取得した単位 属する学科以外の選択科目、単位互換講座科目および課程科目で取得した単位	8		

【注意事項】

1. 表右欄の数字は卒業必要単位数を示します。
2. 単位数を表記していない科目は、半期2単位です。
3. 毎年度に履修登録可能な単位の上限は49単位とします。(ただし卒業論文と課程科目を除く)
4. ◆印：兼修語学のうち自由選択語学で修得した単位は、自由選択単位に算入します。
5. 全学共通科目は、人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域の中からそれぞれ1科目以上の履修が必要です。
6. 語学文学コースの科目は、授業コードによって基礎・発展の区別があります。詳細は、P77履修科目表を参照してください。

【ロシア学科履修科目】

必修科目	A	学科専攻語学	※Ⅰ階程：ロシア語 12単位 [通年6科目] 一括認定 [1]・[2]・[3]・[4]・[5]・[6]	※Ⅱ階程：ロシア語 12単位 [通年6科目] 一括認定 講読 [1]・[2]・文法 [1]・[2]・作文会話・会話	44
			Ⅲ階程：ロシア語 12単位 [通年6科目] 講読 [1]・[2]・[3]・[4]・作文・会話	Ⅳ階程：ロシア語 8単位 [通年4科目] 講読 [1]・[2]・[3]・会話	
兼修語学	B	必修語学	Ⅰ階程：英語 4単位 [通年2科目 [1]・[2]]	Ⅱ階程：英語 4単位 [通年2科目 [1]・[2]]	8
			自由選択語学	英語Ⅲ [1] [2], イタリア語Ⅰ・Ⅱ, ポルトガル語Ⅰ・Ⅱ, インドネシア語, 朝鮮語Ⅰ・Ⅱ, エスペラント語, 東洋諸語 } [各通年2単位] 中国語Ⅲ, イスパニア語Ⅲ, フランス語Ⅲ, ドイツ語Ⅲ, 東欧諸語1~4 [各半期1単位]	◆
C	学科基礎科目 (ロシア学科)		ロシア文化史1・2, ロシアの社会1・2, ロシア地域論1~4, ロシア文学史1・2, ロシア史1・2, ロシア語学入門, ロシア学入門, ロシア文化入門1・2	12	
D	全学共通科目	人文領域	宗教学入門, 哲学概論, 日本思想史, 仏教学, 倫理学入門, ジェンダー論入門, 社会学入門, アメリカ地域論, ヨーロッパ地域論入門, 西洋史, 東洋史入門, 日本史入門, 歴史学入門, 言語学入門, 日本語学概論1・2, 日本文学論入門, 日本文化入門, 近現代日本社会入門, 言語学基礎論1・2, 音声学1・2, 古典語(ラテン語)1・2, 海外派遣留学科目1~4, 海外協定校短期研修1・2, 中東欧研究入門1~4 [各半期1単位], 海外協定校提供科目A	16	
		社会科学領域	憲法1・2, 現代の法, 現代の政治, 地域経済と企業, 現代日本経済論1・2, 経済経営入門, 現代国際法政問題, 現代国際経済問題, 現代国際文化問題, インターンシップ(就業体験)1・2 [各半期1単位], 現代の企業経営, 国際ビジネス・コミュニケーション, ビジネスロシア語1・2, ビジネス中国語1・2, 商業イスパニア語1・2, 現代世界経済論1・2, 社会開発論, 社会人類学入門		
		自然・人間科学領域	自然の認識1・2, 東の科学, 西の科学, 数理の世界1・2, 情報科学概論1~3, 人権論, 人権教育, 環境と人間, 人間形成論入門, 社会心理学入門1・2, 臨床心理学入門1・2, 生涯教育論1・2, 児童英語教育, スポーツ方法1・2 [各半期1単位], 教育原理, 教育哲学, 教育史, 神戸・教育インターンシップ1~3 [各半期1単位], キャリアデザイン, ジャーナリズム論1, キャンパスライフ入門, データサイエンス入門		
E	コース科目	全てのコース 科目として 認定される	模擬国連 [コース科目への認定は1回限り。2回目以降は自由選択単位となる。]		
		語学 文学	基礎 ロシア文学特殊講義1・2, ロシア語学特殊講義1・2, ロシア文学研究演習1, ロシア語学演習1・2, ロシア文化特殊講義1	20	
		発展 ロシア文学特殊講義1・2, ロシア語学特殊講義1・2, ロシア文学研究演習2, ロシア文化特殊講義2			
		国際 法政	基礎 民法1・2, 政治学1・2, 国際政治学1・2, 比較政治1・2, 国際法「基本」1・2, 国際政治経済学, アジア国際関係史1・2, アメリカ政治1, 中国法政論, 社会学, 移民社会論, 統計学1・2, 文化と政治, ロシア政治経済論1・2	20	
		発展 民法3~5, 行政法1・2, 国際取引法1・2, 法政特論1・2, 途上国地域社会論1・2, 国際紛争処理法, 国際法「発展」1・2, 国際私法1・2, ヨーロッパ政治1・2, アフリカ政治1・2, アメリカ政治2, 移民社会論演習, ゲーム理論, 比較地域研究1・2, 東南アジア地域論:政治, 商法1・2, 労働法, 東南アジア地域論特殊講義:政治			
		経済 経営	基礎 ミクロ経済学1・2, マクロ経済学1・2, 簿記原理, 経営学1・2, 神戸研究, 近代世界システム成立史, 統計学1・2, ロシア政治経済論1・2	20	
		発展 国際経営論1・2, ミクロ経済政策1・2, マクロ経済政策1・2, 産業組織の経済学1・2, 経済学演習1・2, 経済学特殊講義1~4, 経営学特殊講義1~4, 会計学1・2, マーケティング論1・2, 国際商務論1・2, 商業英語1・2, 国際金融論1・2, 国際貿易論, 貿易政策論, 開発経済論1・2, 多国籍企業論1・2, 金融論1・2, 財政学1・2, 公共政策, 労働経済, 計量経済学1・2, 商法1・2, 労働法, ゲーム理論, 東南アジア地域論:経済, 東南アジア地域論特殊講義:経済			
		多文化 共生	基礎 宗教と社会の共生, ヨーロッパ地域論, 移民社会論, 朝鮮文化論1, 外国人学習者の観点から見た日本語, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, 民族誌学1, 近現代日本社会, アジアの文化と社会の共生1・2, アジア言語文化の諸問題, フランスの思想と社会1, 出版と編集1, コミュニケーション概論, コミュニケーション理論, 言語と国家, 社会人類学, コミュニケーション論, 異文化間コミュニケーション論, 英米文学特殊講義(現代社会)1・2, 英語学特殊講義(現代社会)1~4, バリアフリー論, 日本手話, ロシア文化特殊講義1, 中国文化特殊講義2, ラテンアメリカ文化特殊講義1・2, 社会調査分析1・2, 文化と政治, 環境論1	20	
		発展 フランスの社会, 朝鮮文化論2, 民族誌学2, 日本語の談話研究, 日本語変異の研究, 近現代日本社会研究1・2, 言語文化の多様性とアジア1・2, フランスの思想と社会2, 出版と編集2, コミュニケーション研究, 言語と文化, 社会人類学研究, ジェンダー共生論演習, 社会共生論演習, プロジェクト演習, 東南アジアの社会と文化, 比較地域研究1・2, 東南アジア地域論:経済, 東南アジア地域論:政治, 東南アジア地域論特殊講義:経済, 東南アジア地域論特殊講義:政治, ロシア文化特殊講義2, 中国文化特殊講義4, 移民社会論演習, 環境論2			
		リベラル アーツ	基礎 宗教学基礎論, 西洋哲学史, 倫理学, フランス文化論1, ヨーロッパ文化史1, ヨーロッパ文化論1, ヨーロッパ文学論, 東洋史, 日本史, 日本文学論, 言語類型論, 歴史言語学, 古典語(ギリシャ語)1・2, 日本語教育の基礎, 人間形成論, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本の文化, 西洋古典学1, 哲学, 自然科学(基礎)1・2, 人間関係論1・2, スポーツ文化論1・2, 中欧文化史1, ヨーロッパにおけるドイツ1, フランス文学論1, ジェンダー論, 文化芸術論1, 社会学, 小学校英語教育論, 社会調査分析1・2	20	
発展 フランス文化論2, ヨーロッパ文化史2, ヨーロッパ文化論2, 日本文化の諸相1・2, 言語学研究1・2, 小学校英語教育論演習, 社会言語学, 西洋古典学2, 西洋史研究1・2, アジア言語文化1・2, 歴史学特殊講義, 自然科学(発展)1・2, スポーツ文化論演習「第1」1・2, スポーツ文化論演習「第2」1・2, 一般言語学から見た日本語, 日本語の統語論的研究, 日本語の意味・機能研究, 日本語音声・音韻の研究, 日本文化研究1・2, アジア言語学1・2, 哲学特殊講義1・2, 中欧文化史2, ヨーロッパにおけるドイツ2, フランス文学論2, 社会心理学演習1・2, 臨床心理学演習1・2, 現代文明論, 文化芸術論2					
F	研究指導 卒業論文	研究指導〔必修〕[通年4単位][通年4単位], 卒業論文〔半期8単位〕 (卒業論文は自由選択。卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければなりません。)	16		
G	自由選択単位	属する学科の必修科目及び選択科目の卒業必要単位数を超過して取得した単位および自由選択語学で取得した単位 属する学科以外の選択科目、単位互換講座科目および課程科目で取得した単位	8		

【注意事項】

1. 表右欄の数字は卒業必要単位数を示します。
2. 単位数を表記していない科目は、半期2単位です。
3. 毎年度に履修登録可能な単位の上限は49単位とします。(ただし卒業論文と課程科目を除く)
4. ※印：専攻語学Ⅰ階程及びⅡ階程の単位は一括して認定します。
5. ◆印：兼修語学のうち自由選択語学で修得した単位は、自由選択単位に算入します。
6. 全学共通科目は、人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域の中からそれぞれ1科目以上の履修が必要です。
7. 語学文学コースの科目は、授業コードによって基礎・発展の区別があります。詳細は、P77履修科目表を参照してください。

【中国学科履修科目】

必修科目	A	学科専攻語学	※Ⅰ階程：中国語 12単位 [通年6科目] 一括認定 [1]・[2]・[3]・[4]・[5]・[6]	※Ⅱ階程：中国語 12単位 [通年6科目] 一括認定 講読 [1]・[2]・[3]・文法・作文・会話	44
			Ⅲ階程：中国語 12単位 [通年6科目] 講読 [1]・[2]・[3]・[4]・[5]・作文会話	Ⅳ階程：中国語 8単位 [通年4科目] 講読 [1]・[2]・[3]・作文	
B	兼修語学	自由選択語学	Ⅰ階程：英語 4単位 [通年2科目] [1]・[2]]	Ⅱ階程：英語 4単位 [通年2科目] [1]・[2]]	8
			英語Ⅲ [1] [2], イタリア語Ⅰ・Ⅱ, ポルトガル語Ⅰ・Ⅱ, インドネシア語, 朝鮮語Ⅰ・Ⅱ, エスペラント語, 東洋諸語, ロシア語Ⅲ, イスパニア語Ⅲ, フランス語Ⅲ, ドイツ語Ⅲ, 東欧諸語1～4		[各通年2単位] [各半期1単位]
C		学科基礎科目 (中国学科)	中国文化論, 中国社会論, 中国経済論, 中国の法と政治, 現代中国論, 中国地域論, 中国歴史論, 中国文学史1・2, 中国語学基礎論1・2, 東洋思想1・2		12
D	全学共通科目	人文領域	宗教学入門, 哲学概論, 日本思想史, 仏教学, 倫理学入門, ジェンダー論入門, 社会学入門, アメリカ地域論, ヨーロッパ地域論入門, 西洋史, 東洋史入門, 日本史入門, 歴史学入門, 言語学入門, 日本語学概論1・2, 日本文学入門, 日本文化入門, 近現代日本社会入門, 言語学基礎論1・2, 音声学1・2, 古典語(ラテン語)1・2, 海外派遣留学科目1～4, 海外協定校短期研修1・2, 中東欧研究入門1～4 [各半期1単位], 海外協定校提供科目A		16
		社会科学領域	憲法1・2, 現代の法, 現代の政治, 地域経済と企業, 現代日本経済論1・2, 経済経営入門, 現代国際法政問題, 現代国際経済問題, 現代国際文化問題, インターンシップ(就業体験)1・2 [各半期1単位], 現代の企業経営, 国際ビジネス・コミュニケーション, ビジネスロシア語1・2, ビジネス中国語1・2, 商業イスパニア語1・2, 現代世界経済論1・2, 社会開発論, 社会人類学入門		
		自然・人間科学領域	自然の認識1・2, 東の科学, 西の科学, 数理の世界1・2, 情報科学概論1～3, 人権論, 人権教育, 環境と人間, 人間形成論入門, 社会心理学入門1・2, 臨床心理学入門1・2, 生涯教育論1・2, 児童英語教育, スポーツ方法1・2 [各半期1単位], 教育原理, 教育哲学, 教育史, 神戸・教育インターンシップ1～3 [各半期1単位], キャリアデザイン, ジャーナリズム論1, キャンパスライフ入門, データサイエンス入門		
E	コース科目	全てのコースでコース科目として認定される	模擬国連 [コース科目への認定は1回限り。2回目以降は自由選択単位となる。]		
		語学文学	基礎	中国文学特殊講義1～4, 中国語学特殊講義1～5, 中国文化特殊講義1・2, 中国文学研究演習1, 中国語学演習1	20
			発展	中国文学特殊講義5・6, 中国語学特殊講義6～12, 中国文化特殊講義3・4, 中国文学研究演習2, 中国語学演習2	
		国際法政	基礎	民法1・2, 政治学1・2, 国際政治学1・2, 比較政治1・2, 国際法「基本」1・2, 国際政治経済学, アジア国際関係史1・2, アメリカ政治1, 中国法政論, 社会学, ロシアの社会2, 移民社会論, 統計学1・2, 文化と政治, ロシア政治経済論1・2	20
			発展	民法3～5, 行政法1・2, 国際取引法1・2, 法政特論1・2, 途上国地域社会論1・2, 国際紛争処理法, 国際法「発展」1・2, 国際私法1・2, ヨーロッパ政治1・2, アフリカ政治1・2, アメリカ政治2, 移民社会論演習, ゲーム理論, 比較地域研究1・2, 東南アジア地域論:政治, 商法1・2, 労働法, 東南アジア地域論特殊講義:政治	
		経済経営	基礎	ミクロ経済学1・2, マクロ経済学1・2, 簿記原理, 経営学1・2, 神戸研究, 近代世界システム成立史, 統計学1・2, ロシア政治経済論1・2	20
			発展	国際経営論1・2, ミクロ経済政策1・2, マクロ経済政策1・2, 産業組織の経済学1・2, 経済学演習1・2, 経済学特殊講義1～4, 経営学特殊講義1～4, 会計学1・2, マーケティング論1・2, 国際商務論1・2, 商業英語1・2, 国際金融論1・2, 国際貿易論, 貿易政策論, 開発経済論1・2, 多国籍企業論1・2, 金融論1・2, 財政学1・2, 公共政策, 労働経済, 計量経済学1・2, 商法1・2, 労働法, ゲーム理論, 東南アジア地域論:経済, 東南アジア地域論特殊講義:経済	
		多文化共生	基礎	宗教と社会の共生, ヨーロッパ地域論, 移民社会論, 朝鮮文化論1, 外国人学習者の観点から見た日本語, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, 民族誌学1, 近現代日本社会, アジアの文化と社会の共生1・2, アジア言語文化の諸問題, フランスの思想と社会1, 出版と編集1, コミュニケーション学概論, コミュニケーション理論, 言語と国家, 社会人類学, コミュニケーション論, 異文化間コミュニケーション論, 英米文学特殊講義(現代社会)1・2, 英語学特殊講義(現代社会)1～4, バリアフリー論, 日本手話, ロシア文化特殊講義1, 中国文化特殊講義2, ラテンアメリカ文化特殊講義1・2, 社会調査分析1・2, 文化と政治, 環境論1	20
			発展	フランスの社会, 朝鮮文化論2, 民族誌学2, 日本語の談話研究, 日本語変異の研究, 近現代日本社会研究1・2, 言語文化の多様性とアジア1・2, フランスの思想と社会2, 出版と編集2, コミュニケーション研究, 言語と文化, 社会人類学研究, ジェンダー共生論演習, 社会共生論演習, プロジェクト演習, 東南アジアの社会と文化, 比較地域研究1・2, 東南アジア地域論:経済, 東南アジア地域論:政治, 東南アジア地域論特殊講義:経済, 東南アジア地域論特殊講義:政治, ロシア文化特殊講義2, 中国文化特殊講義4, 移民社会論演習, 環境論2	
		リベラルアーツ	基礎	宗教学基礎論, 西洋哲学史, 倫理学, フランス文化論1, ヨーロッパ文化史1, ヨーロッパ文化論1, ヨーロッパ文学論, 東洋史, 日本史, 日本文学論, 言語類型論, 歴史言語学, 古典語(ギリシャ語)1・2, 日本語教育の基礎, 人間形成論, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本の文化, 西洋古典学1, 哲学, 自然科学(基礎)1・2, 人間関係論1・2, スポーツ文化論1・2, 中欧文化史1, ヨーロッパにおけるドイツ1, フランス文学論1, ジェンダー論, 文化芸術論1, 社会学, 小学校英語教育論, 社会調査分析1・2	20
発展	フランス文化論2, ヨーロッパ文化史2, ヨーロッパ文化論2, 日本文化の諸相1・2, 言語学研究1・2, 小学校英語教育論演習, 社会言語学, 西洋古典学2, 西洋史研究1・2, アジア言語文化1・2, 歴史学特殊講義, 自然科学(発展)1・2, スポーツ文化論演習「第1」1・2, スポーツ文化論演習「第2」1・2, 一般言語学から見た日本語, 日本語の統論的研究, 日本語の意味・機能研究, 日本語音声・音韻の研究, 日本文化研究1・2, アジア言語学1・2, 哲学特殊講義1・2, 中欧文化史2, ヨーロッパにおけるドイツ2, フランス文学論2, 社会心理学演習1・2, 臨床心理学演習1・2, 現代文明論, 文化芸術論2				
F		研究指導, 卒業論文	研究指導 [必修] [通年4単位] [通年4単位], 卒業論文 [半期8単位] (卒業論文は自由選択。卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければなりません。)	16	
G		自由選択単位	属する学科の必修科目及び選択科目の卒業必要単位数を超えて取得した単位および自由選択語学で取得した単位 属する学科以外の選択科目、単位互換講座科目および課程科目で取得した単位	8	

【注意事項】

1. 表右欄の数字は卒業必要単位数を示します。
2. 単位数を表記していない科目は、半期2単位です。
3. 毎年度に履修登録可能な単位の上限は49単位とします。(ただし卒業論文と課程科目を除く)
4. ※印：専攻語学Ⅰ階程及びⅡ階程の単位は一括して認定します。
5. ◆印：兼修語学のうち自由選択語学で修得した単位は、自由選択単位に算入します。
6. 全学共通科目は、人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域の中からそれぞれ1科目以上の履修が必要です。
7. 語学文学コースの科目は、授業コードによって基礎・発展の区別があります。詳細は、P77履修科目表を参照してください。

【イスパニア学科履修科目】

必修科目	A	学科専攻語学	※Ⅰ階程：イスパニア語 12単位 [通年6科目] 一括認定 [1]・[2]・[3]・[4]・[5]・[6]	※Ⅱ階程：イスパニア語 12単位 [通年6科目] 一括認定 講読 [1]・[2]・文法・作文・会話 [1]・[2]	44	
			Ⅲ階程：イスパニア語 12単位 [通年6科目] 講読 [1]・[2]・[3]・作文・会話 [1]・[2]	Ⅳ階程：イスパニア語 8単位 [通年4科目] 講読 [1]・[2]・作文・会話		
兼修語学	B	必修語学	I階程：英語 4単位 [通年2科目] [1]・[2]]	Ⅱ階程：英語 4単位 [通年2科目] [1]・[2]]	8	
			自由選択語学	英語Ⅲ [1] [2], イタリア語Ⅰ・Ⅱ, ボルトガル語Ⅰ・Ⅱ, インドネシア語, 朝鮮語Ⅰ・Ⅱ, エスペラント語, 東洋諸語 } [各通年2単位]	◆	
C	学科基礎科目 (イスパニア学科)	イスパニア文化史1・2, 中南米文化史1・2, イスパニアの社会1・2, 中南米の社会1・2, 中南米地域研究1・2, イスパニア文学史1・2, ラテンアメリカ文学史1・2, イスパニア語学概論1・2, Preparación para el DELE (DELE対策演習) 1・2		12		
		D	人文領域	宗教学入門, 哲学概論, 日本思想史, 仏教学, 倫理学入門, ジェンダー論入門, 社会学入門, アメリカ地域論, ヨーロッパ地域論入門, 西洋史, 東洋史入門, 日本史入門, 歴史学入門, 言語学入門, 日本語概論1・2, 日本文学論入門, 日本文化入門, 近現代日本社会入門, 言語学基礎論1・2, 音声学1・2, 古典語(ラテン語)1・2, 海外派遣留学科目1~4, 海外協定校短期研修1・2, 中東欧研究入門1~4 [各半期1単位], 海外協定校提供科目A	16	
社会科学領域	憲法1・2, 現代の法, 現代の政治, 地域経済と企業, 現代日本経済論1・2, 経済経営入門, 現代国際法政問題, 現代国際経済問題, 現代国際文化問題, インターンシップ(就業体験)1・2 [各半期1単位], 現代の企業経営, 国際ビジネス・コミュニケーション, ビジネスロシア語1・2, ビジネス中国語1・2, 商業イスパニア語1・2, 現代世界経済論1・2, 社会開発論, 社会人類学入門					
自然・人間 科学領域	自然の認識1・2, 東の科学, 西の科学, 数理の世界1・2, 情報科学概論1~3, 人権論, 人権教育, 環境と人間, 人間形成論入門, 社会心理学入門1・2, 臨床心理学入門1・2, 生涯教育論1・2, 児童英語教育, スポーツ方法1・2 [各半期1単位], 教育原理, 教育哲学, 教育史, 神戸・教育インターンシップ1~3 [各半期1単位], キャリアデザイン, ジャーナリズム論1, キャンパスライフ入門, データサイエンス入門					
選択科目	E	コース科目	全てのコース 科目として 認定される	模擬国連 [コース科目への認定は1回限り。2回目以降は自由選択単位となる。]		
			語学 文学	基礎	イスパニア文学特殊講義1・2, ラテンアメリカ文学特殊講義1・2, イスパニア語学特殊講義1・2, イスパニア文化特殊講義1・2, イスパニア文学研究演習1・2, ラテンアメリカ文学研究演習1・2, イスパニア語学演習1・2, ラテンアメリカ文化特殊講義1・2	20
				発展	イスパニア文学特殊講義3・4, ラテンアメリカ文学特殊講義3・4, イスパニア語学特殊講義3・4, イスパニア文化特殊講義3・4, ラテンアメリカ文化特殊講義3・4, イスパニア文学研究演習3・4, ラテンアメリカ文学研究演習3・4, イスパニア語学演習3・4	
			国際 法政	基礎	民法1・2, 政治学1・2, 国際政治学1・2, 比較政治1・2, 国際法「基本」1・2, 国際政治経済学, アジア国際関係史1・2, アメリカ政治1, 中国法政論, 社会学, ロシアの社会2, 移民社会論, 統計学1・2, 文化と政治, ロシア政治経済論1・2	20
				発展	民法3・4・5, 行政法1・2, 国際取引法1・2, 法政特論1・2, 途上国地域社会論1・2, 国際紛争処理法, 国際法「発展」1・2, 国際私法1・2, ヨーロッパ政治1・2, アフリカ政治1・2, アメリカ政治2, 移民社会論演習, ゲーム理論, 比較地域研究1・2, 東南アジア地域論：政治, 商法1・2, 労働法, 東南アジア地域論特殊講義：政治	
			経済 経営	基礎	ミクロ経済学1・2, マクロ経済学1・2, 簿記原理, 経営学1・2, 神戸研究, 近代世界システム成立史, 統計学1・2, ロシア政治経済論1・2	20
				発展	国際経営論1・2, ミクロ経済政策1・2, マクロ経済政策1・2, 産業組織の経済学1・2, 経済学演習1・2, 経済学特殊講義1~4, 経営学特殊講義1~4, 会計学1・2, マーケティング論1・2, 国際商務論1・2, 商業英語1・2, 国際金融論1・2, 国際貿易論, 貿易政策論, 開発経済論1・2, 多国籍企業論1・2, 金融論1・2, 財政学1・2, 公共政策, 労働経済, 計量経済学1・2, 商法1・2, 労働法, ゲーム理論, 東南アジア地域論：経済, 東南アジア地域論特殊講義：経済	
			多文化 共生	基礎	宗教と社会の共生, ヨーロッパ地域論, 移民社会論, 朝鮮文化論1, 外国人学習者の観点から見た日本語, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, 民族誌学1, 近現代日本社会, アジアの文化と社会の共生1・2, アジア言語文化の諸問題, フランスの思想と社会1, 出版と編集1, コミュニケーション学概論, コミュニケーション理論, 言語と国家, 社会人類学, コミュニケーション論, 異文化間コミュニケーション論, 英米文学特殊講義(現代社会)1・2, 英語学特殊講義(現代社会)1~4, バリアフリー論, 日本語手話, ロシア文化特殊講義1, 中国文化特殊講義2, ラテンアメリカ文化特殊講義1・2, 社会調査分析1・2, 文化と政治, 環境論1	20
				発展	フランスの社会, 朝鮮文化論2, 民族誌学2, 日本語の談話研究, 日本語変異の研究, 近現代日本社会研究1・2, 言語文化の多様性とアジア1・2, フランスの思想と社会2, 出版と編集2, コミュニケーション研究, 言語と文化, 社会人類学研究, ジェンダー共生論演習, 社会共生論演習, プロジェクト演習, 東南アジアの社会と文化, 比較地域研究1・2, 東南アジア地域論：経済, 東南アジア地域論：政治, 東南アジア地域論特殊講義：経済, 東南アジア地域論特殊講義：政治, ロシア文化特殊講義2, 中国文化特殊講義4, 移民社会論演習, 環境論2	
			リベラル アーツ	基礎	宗教学基礎論, 西洋哲学史, 倫理学, フランス文化論1, ヨーロッパ文化史1, ヨーロッパ文化論1, ヨーロッパ文学論, 東洋史, 日本史, 日本文学論, 言語類型論, 歴史言語学, 古典語(ギリシャ語)1・2, 日本語教育の基礎, 人間形成論, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本の文化, 西洋古典学1, 哲学, 自然科学(基礎)1・2, 人間関係論1・2, スポーツ文化論1・2, 中欧文化史1, ヨーロッパにおけるドイツ1, フランス文学論1, ジェンダー論, 文化芸術論1, 社会学, 小学校英語教育論, 社会調査分析1・2	20
発展	フランス文化論2, ヨーロッパ文化史2, ヨーロッパ文化論2, 日本文化の諸相1・2, 言語学研究1・2, 小学校英語教育論演習, 社会言語学, 西洋古典学2, 西洋史研究1・2, アジア言語文化1・2, 歴史学特殊講義, 自然科学(発展)1・2, スポーツ文化論演習「第1」1・2, スポーツ文化論演習「第2」1・2, 一般言語学から見た日本語, 日本語の統語論的研究, 日本語の意味・機能研究, 日本語音声・音韻の研究, 日本文化研究1・2, アジア言語学1・2, 哲学特殊講義1・2, 中欧文化史2, ヨーロッパにおけるドイツ2, フランス文学論2, 社会心理学演習1・2, 臨床心理学演習1・2, 現代文明論, 文化芸術論2					
F	研究指導, 卒業論文	研究指導 [必修] [通年4単位] [通年4単位], 卒業論文 [半期8単位] (卒業論文は自由選択。卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければなりません。)	16			
G	自由選択単位	属する学科の必修科目及び選択科目の卒業必要単位数を超えて取得した単位および自由選択語学で取得した単位 属する学科以外の選択科目、単位互換講座科目および課程科目で取得した単位	8			

【注意事項】

- 表右欄の数字は卒業必要単位数を示します。
- 単位数を表記していない科目は、半期2単位です。
- 毎年度に履修登録可能な単位の上限は40単位とします。(ただし卒業論文と課程科目を除く)
- ※印：専攻語学Ⅰ階程及びⅡ階程の単位は一括して認定します。
- ◆印：兼修語学のうち自由選択語学で修得した単位は、自由選択単位に算入します。
- 全学共通科目は、人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域の中からそれぞれ1科目以上の履修が必要です。
- 語学文学コースの科目は、授業コードによって基礎・発展の区別があります。詳細は、P77履修科目表を参照してください。

【国際関係学科履修科目】

必修科目	A	学科専攻語学	I 階程：英語 8 単位 [通年 4 科目] Global Issues 1, Academic Reading 1, Academic Writing 1, Oral Communication 1	II 階程：英語 8 単位 [通年 4 科目] Global Issues 2, Academic Reading 2, Academic Writing 2, Oral Communication 2	24	
			III 階程：英語 4 単位 [通年 2 科目] Global Issues 3, Integrated Skills in English 1	IV 階程：英語 4 単位 [通年 2 科目] Global Issues 4, Integrated Skills in English 2		
B	兼修語学	必修語学	I 階程：4 単位 [通年 2 科目 [1]・[2]] 一括認定 II 階程：4 単位 [通年 2 科目 [1]・[2]]	ロシア語、中国語、イスパニア語、フランス語、ドイツ語	[1 言語選択]	8
		自由選択語学	英語Ⅲ [1] [2], イタリア語Ⅰ・Ⅱ, ポルトガル語Ⅰ・Ⅱ, インドネシア語, 朝鮮語Ⅰ・Ⅱ, エスペラント語, 東洋諸語		[各通年 2 単位]	
			ロシア語Ⅲ, 中国語Ⅲ, イスパニア語Ⅲ, フランス語Ⅲ, ドイツ語Ⅲ, 東欧諸語 1~4		[各半期 1 単位]	
C		学科基礎科目 (国際関係学科)	国際機構論, 国際経済関係史, 地球市民社会論 1~4, 国際関係学特別講義		8	
D	全学共通科目	人文領域	宗教学入門, 哲学概論, 日本思想史, 仏教学, 倫理学入門, ジェンダー論入門, 社会学入門, アメリカ地域論, ヨーロッパ地域論入門, 西洋史, 東洋史入門, 日本史入門, 歴史学入門, 言語学入門, 日本語学概論 1・2, 日本文学入門, 日本文化入門, 近現代日本社会入門, 言語学基礎論 1・2, 音声学 1・2, 古典語 (ラテン語) 1・2, 海外派遣留学科目 1~4, 海外協定校短期研修 1・2, 中東欧研究入門 1~4 [各半期 1 単位], 海外協定校提供科目 A		12	
		社会科学領域	憲法 1・2, 現代の法, 現代の政治, 地域経済と企業, 現代日本経済論 1・2, 経済経営入門, 現代国際法政問題, 現代国際経済問題, 現代国際文化問題, インターンシップ (就業体験) 1・2 [各半期 1 単位], 現代の企業経営, 国際ビジネス・コミュニケーション, ビジネスロシア語 1・2, ビジネス中国語 1・2, 商業イスパニア語 1・2, 現代世界経済論 1・2, 社会開発論, 社会人類学入門			
		自然・人間科学領域	自然の認識 1・2, 東の科学, 西の科学, 数理の世界 1・2, 情報科学概論 1~3, 人権論, 人権教育, 環境と人間, 人間形成論入門, 社会心理学入門 1・2, 臨床心理学入門 1・2, 生涯教育論 1・2, 児童英語教育, スポーツ方法 1・2 [各半期 1 単位], 教育原理, 教育哲学, 教育史, 神戸・教育インターンシップ 1~3 [各半期 1 単位], キャリアデザイン, ジャーナリズム論 1, キャンパスライフ入門, データサイエンス入門			
E	コース科目	国際法政	基礎	民法 1・2, 政治学 1・2, 国際政治学 1・2, 比較政治 1・2, 国際法「基本」1・2, 国際政治経済学, アジア国際関係史 1・2, アメリカ政治 1, 中国法政論, 社会学, ロシアの社会 2, ロシア政治経済論 1・2, 移民社会論, 統計学 1・2, 文化と政治	主専攻 28・副専攻 20	
			発展	民法 3~5, 行政法 1・2, 国際取引法 1・2, 法政特論 1・2, 途上国地域社会論 1・2, 国際紛争処理法, 国際法「発展」1・2, 国際私法 1・2, ヨーロッパ政治 1・2, アフリカ政治 1・2, アメリカ政治 2, 移民社会論演習, ゲーム理論, 比較地域研究 1・2, 東南アジア地域論：政治, 商法 1・2, 労働法, 東南アジア地域論特殊講義：政治		
		経済経営	基礎	ミクロ経済学 1・2, マクロ経済学 1・2, 簿記原理, 経営学 1・2, 神戸研究, 近代世界システム成立史, 統計学 1・2, ロシア政治経済論 1・2		
			発展	国際経営論 1・2, ミクロ経済政策 1・2, マクロ経済政策 1・2, 産業組織の経済学 1・2, 経済学演習 1・2, 経済学特殊講義 1~4, 経営学特殊講義 1~4, 会計学 1・2, マーケティング論 1・2, 国際商務論 1・2, 商業英語 1・2, 国際金融論 1・2, 国際貿易論, 貿易政策論, 開発経済論 1・2, 多国籍企業論 1・2, 金融論 1・2, 財政学 1・2, 公共政策, 労働経済, 計量経済学 1・2, 商法 1・2, 労働法, ゲーム理論, 東南アジア地域論：経済, 東南アジア地域論特殊講義：経済		
		多文化共生	基礎	宗教と社会の共生, ヨーロッパ地域論, 朝鮮文化論 1, 外国人学習者の観点から見た日本語, 日本語の形と意味, 日本語の多様性, 民族誌学 1, 近現代日本社会, アジアの文化と社会の共生 1・2, アジア言語文化の諸問題, フランスの思想と社会 1, 出版と編集 1, コミュニケーション学概論, コミュニケーション理論, 言語と国家, 社会人類学, コミュニケーション論, 異文化間コミュニケーション論, 英米文学特殊講義 (現代社会) 1・2, 英語学特殊講義 (現代社会) 1~4, バリアフリー論, 日本語手話, ロシア文化特殊講義 1, 中国文化特殊講義 2, ラテンアメリカ文化特殊講義 1・2, 移民社会論, 社会調査分析 1・2, 文化と政治, 環境論 1		
			発展	フランスの社会, 朝鮮文化論 2, 民族誌学 2, 日本語の談話研究, 日本語変異の研究, 近現代日本社会研究 1・2, 言語文化の多様性とアジア 1・2, フランスの思想と社会 2, 出版と編集 2, コミュニケーション研究, 言語と文化, 社会人類学研究, ジェンダー共生論演習, 社会共生論演習, プロジェクト演習, 東南アジアの社会と文化, 比較地域研究 1・2, 東南アジア地域論：経済, 東南アジア地域論：政治, 東南アジア地域論特殊講義：経済, 東南アジア地域論特殊講義：政治, ロシア文化特殊講義 2, 中国文化特殊講義 4, 移民社会論演習, 環境論 2		
		リベラルアーツ	基礎	宗教学基礎論, 西洋哲学史, 倫理学, フランス文化論 1, ヨーロッパ文化史 1, ヨーロッパ文化論 1, ヨーロッパ文学論, 東洋史, 日本史, 日本文学論, 言語類型論, 歴史言語学, 古典語 (ギリシャ語) 1・2, 日本語教育の基礎, 人間形成論, 日本語の文法, 日本語の音声, 日本の文化, 西洋古典学 1, 哲学, 自然科学 (基礎) 1・2, 人間関係論 1・2, スポーツ文化論 1・2, 中欧文化史 1, ヨーロッパにおけるドイツ 1, フランス文学論 1, ジェンダー論, 文化芸術論 1, 社会学, 小学校英語教育論, 社会調査分析 1・2		
			発展	フランス文化論 2, ヨーロッパ文化史 2, ヨーロッパ文化論 2, 日本文化の諸相 1・2, 言語学研究 1・2, 小学校英語教育論演習, 社会言語学, 西洋古典学 2, 西洋史研究 1・2, アジア言語文化 1・2, 歴史学特殊講義, 自然科学 (発展) 1・2, スポーツ文化論演習「第 1」1・2, スポーツ文化論演習「第 2」1・2, 一般言語学から見た日本語, 日本語の統語論的研究, 日本語の意味・機能研究, 日本語音声・音韻の研究, 日本文化研究 1・2, アジア言語学 1・2, 哲学特殊講義 1・2, 中欧文化史 2, ヨーロッパにおけるドイツ 2, フランス文学論 2, 社会心理学演習 1・2, 臨床心理学演習 1・2, 現代文明論, 文化芸術論 2		
		F		研究指導, 卒業論文	研究指導 [必修] [通年 4 単位] [通年 4 単位], 卒業論文 [半期 8 単位] (卒業論文は自由選択。卒業論文により 8 単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて 8 単位取得しなければなりません。)	16
		G		自由選択単位	属する学科の必修科目及び選択科目の卒業必要単位数を超えて取得した単位および自由選択語学で取得した単位 属する学科以外の選択科目、単位互換講座科目および課程科目で取得した単位	8

【注意事項】

- 表右欄の数字は卒業必要単位数を示します。
- 単位数を表記していない科目は、半期 2 単位です。
- 毎年度に履修登録可能な単位の上限は 49 単位とします。(ただし卒業論文と課程科目を除く)
- ◆印：兼修語学のうち自由選択語学で修得した単位は、自由選択単位に算入します。
- 全学共通科目は、人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域の中からそれぞれ 1 科目以上の履修が必要です。
- 下線のある科目は、1 つの科目が複数のコースで開講されます。

【第2部英米学科履修科目】

必修科目	A	学科専攻語学	I 階程：英語 10単位 [通年4科目、半期2科目] 講読 [1]・[2]・作文・会話・文法 [半期1単位]・発音 [半期1単位]	II 階程：英語 10単位 [通年5科目] 講読 [1]・[2]・[3]・作文・会話	40
			III 階程：英語 12単位 [通年3科目] 講読 ([1]・[2]・[3]より2科目選択)・会話	IV 階程：英語 8単位 [通年2科目] 講読 ([1]・[2]・[3]より1科目選択)・作文	
兼修語学	B	必修語学	I 階程：4単位 [通年2科目 [1]・[2]] 一括認定 II 階程：4単位 [通年2科目 [1]・[2]]	ロシア語、中国語、イスパニア語、 フランス語、ドイツ語	8
		自由選択語学	ロシア語Ⅲ、中国語Ⅲ、イスパニア語Ⅲ [各半期1単位]	[1言語選択]	
必修科目	C	学科基礎科目 (第2部英米学科)	英国史、英国の文化、米国史、米国の文化、英国の社会1・2、米国の社会1・2、 英語圏の文化と社会1・2、英文学史1・2、米文学史1・2、英語学概論1・2、英語研究入門1・2		12
		全学共通科目	人文領域	宗教学入門、宗教学基礎論、哲学概論、日本思想史、西洋哲学史、ジェンダー論入門、社会学入門、社会学、 ヨーロッパ地域論入門、ヨーロッパ地域論、文化人類学1・2、アジア言語文化の諸問題、西洋史、日本史入門、日本史、 歴史学入門、言語学入門、日本語学概論1・2、日本語の文法、日本語の形と意味、日本語の音声、日本語の多様性、 日本文学論入門、日本文学論、日本文化入門、近現代日本社会入門、日本文化入門「第3」1・2、言語学基礎論1・2、 言語類型論、歴史言語学、音声学1・2、古典語(ギリシャ語)1・2、古典語(ラテン語)1・2、日本語教育の基礎、 外国人学習者の観点から見た日本語、海外派遣留学科目1～4、海外協定校短期研修1・2、海外協定校提供科目A	
選択科目	D	社会科学領域	憲法1・2、現代の法、現代の政治、現代の経済、現代日本経済論1・2、ミクロ経済学1・2、マクロ経済学1・2、 経済経営入門、簿記原理、日本と世界1・2、インターンシップ(就業体験)1・2 [各半期1単位]		12
		自然・人間科学領域	自然の認識1・2、数理の世界1・2、統計学1・2、情報科学概論1～3、人権論、人権教育、 人間形成論入門、人間形成論、社会心理学入門1・2、臨床心理学入門1・2、児童英語教育、スポーツ文化論1・2、 スポーツ方法1・2 [半期1単位]、教育原理、教育哲学、教育史、ジャーナリズム論1・2、 図書館情報資源概論、生涯学習概論、図書館概論、図書・図書館史、神戸・教育インターンシップ1～3 [各半期1単位]、 キャンパスライフ入門、データサイエンス入門		
必修科目	E	英語学・英語研究	英語学特殊講義、音声学・音韻論講義、統語論講義、意味論講義、語用論・談話分析講義、応用言語学1・2、構文研究、 語法文法研究、英語学研究演習1・2、パブリック・スピーチ、リスニング分析1・2、英語教育学演習、社会言語学、 メディア英語演習1・2、通訳演習1・2、英語史1・2		20
		英語圏文化文学	英米文学特殊講義、イギリス文学特殊講義、アメリカ文学特殊講義、英語圏文学特殊講義、英詩・演劇特殊講義、 英米文学・文化研究入門、英米文学と視覚文化、英米文学と社会、比較文学、英米文化特殊講義、現代の思想と文化、 イギリス文学研究演習1・2、アメリカ文学研究演習1・2、英語圏文学研究演習、英米文化研究演習、Advanced Writing 1・2、 文学翻訳演習、西洋史研究1・2、比較地域研究1・2		20
		法経商	民法1～5、商法1～4、行政法1・2、労働法、経済法1・2、英米法1・2、 国際取引法1・2、政治学1・2、比較政治1・2、法政特論1・2、ミクロ経済政策1・2、マクロ経済政策1・2、国際貿易論、 貿易政策論、産業組織の経済学1・2、計量経済学1・2、経済学特殊講義1～4、アメリカ経済論、経営学1・2、 経営学特殊講義1～4、会計学1・2、国際商務論1・2、商業英語1・2、国際金融論1・2、国際法「基本」1・2、 アメリカ政治1・2、ゲーム理論		20
F	研究指導、 卒業論文	研究指導〔必修〕[通年4単位][通年4単位]、卒業論文 [半期8単位] (卒業論文は自由選択。卒業論文により8単位が取得できない場合は、所属コースのコース科目からこれに代えて8単位取得しなければなりません。)		16	
G	自由選択単位	属する学科の必修科目及び選択科目の卒業必要単位数を超えて取得した単位および自由選択語学で取得した単位 属する学科以外の選択科目、単位互換講座科目および課程科目で取得した単位		16	

【注意事項】

1. 表右欄の数字は卒業必要単位数を示します。
2. 単位数を表記していない科目は、半期2単位です。
3. 毎年度に履修登録可能な単位の上限は49単位とします。(ただし卒業論文と課程科目を除く)
4. ◆印：兼修語学のうち自由選択語学で修得した単位は、自由選択単位に算入します。
5. 全学共通科目は、人文領域、社会科学領域、自然・人間科学領域の中からそれぞれ1科目以上の履修が必要です。

神戸市外国語大学数理・データサイエンス・A I 教育推進部会規程

2024年4月1日

規程第3号

(設置)

第1条 神戸市公立大学法人教育研究評議会規則(2023年4月規則第60号)第7条第1項の規定に基づき神戸市外国語大学教育研究評議会に数理・データサイエンス・A I 教育推進部会を設置する。

(審議事項)

第2条 数理・データサイエンス・A I 教育推進部会は、次の事項を審議する。

- (1) 数理・データサイエンス・A I 教育プログラムの企画、運営及び推進に関すること。
- (2) 数理・データサイエンス・A I 教育プログラムの点検、評価及び改善に関すること。
- (3) その他数理・データサイエンス・A I 教育プログラムに関すること。

(組織)

第3条 数理・データサイエンス・A I 教育推進部会は、学長が指名した教員による委員で組織する。

- 2 前項の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第4条 数理・データサイエンス・A I 教育推進部会に部会長及び副部会長を置き、学長が指名した委員を充てる。

- 2 部会長は、部会を招集し、その議長となる。
- 3 部会長に事故があるときは、副部会長が、その職務を代行する。

(議事)

第5条 数理・データサイエンス・A I 教育推進部会は、委員の過半数の出席により成立する。

- 2 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 部会長は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 数理・データサイエンス・A I 教育推進部会の庶務は、大学事務局学生支援・教育グループにおいて行う。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、数理・データサイエンス・A I 教育推進部会の運営に関し必要な事項は、部会で定める。

附 則

この規程は、2024年4月1日から施行する。

神戸市外国語大学数理・データサイエンス・A I 教育推進部会規程

2024年4月1日

規程第3号

(設置)

第1条 神戸市公立大学法人教育研究評議会規則(2023年4月規則第60号)第7条第1項の規定に基づき神戸市外国語大学教育研究評議会に数理・データサイエンス・A I 教育推進部会を設置する。

(審議事項)

第2条 数理・データサイエンス・A I 教育推進部会は、次の事項を審議する。

- (1) 数理・データサイエンス・A I 教育プログラムの企画、運営及び推進に関すること。
- (2) 数理・データサイエンス・A I 教育プログラムの点検、評価及び改善に関すること。
- (3) その他数理・データサイエンス・A I 教育プログラムに関すること。

(組織)

第3条 数理・データサイエンス・A I 教育推進部会は、学長が指名した教員による委員で組織する。

- 2 前項の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第4条 数理・データサイエンス・A I 教育推進部会に部会長及び副部会長を置き、学長が指名した委員を充てる。

- 2 部会長は、部会を招集し、その議長となる。
- 3 部会長に事故があるときは、副部会長が、その職務を代行する。

(議事)

第5条 数理・データサイエンス・A I 教育推進部会は、委員の過半数の出席により成立する。

- 2 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 部会長は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 数理・データサイエンス・A I 教育推進部会の庶務は、大学事務局学生支援・教育グループにおいて行う。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、数理・データサイエンス・A I 教育推進部会の運営に関し必要な事項は、部会で定める。

附 則

この規程は、2024年4月1日から施行する。

神戸市外国語大学評価企画会議規則

2023年4月1日

規則第73号

(設置)

第1条 神戸市外国語大学（以下「本学」という。）の教育研究活動等の状況について自己点検・評価し改善する継続的な取組み（以下「内部質保証」という。）を推進するため、学長のもとに評価企画会議（以下「会議」という。）を設置する。

(目的)

第2条 会議は、全学的な内部質保証を推進することにより、本学が掲げる理念ならびに3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を実現することを目的とする。

(委員の構成)

第3条 会議は、次の各号の委員をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 教学情報委員会委員長
- (4) カリキュラム部会長
- (5) 入試研究部会長
- (6) FD推進部会長
- (7) 大学事務局長
- (8) 大学事務局次長
- (9) その他事務職員の中から学長が指名する者

2 前項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 会議に委員長を置き、学長をもって充てる。委員長に事故あるときは、あらかじめ指名された委員がその職務を代行する。

2 委員長は、会議を招集し、議長となる。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(業務)

第6条 会議は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 全学的な自己点検・評価に関すること
- (2) 認証評価に関すること
- (3) 中期目標、中期計画及び年度計画に関すること
- (4) その他、内部質保証の推進のために必要な事項

(内部質保証に関する方針及び手続き)

第7条 内部質保証に関する方針及び手続きについては、別途定める。

(専門部会)

第8条 会議は、第6条各号を行った結果明らかになった課題について、必要に応じて改善及び改革の方針を検討するための専門部会を置くことができる。

(事務)

第9条 会議の事務は、大学事務局総務グループが行う。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、会議がこれを定める。

附 則

- 1 この規則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 神戸市外国語大学評価企画会議規程（2021年11月規程第5号）は、廃止する。

大学等名	神戸市外国語大学
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム(KCUFS-DASH)

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和7年度

取組概要

目的

かつてない勢いで進むDXに対応できる人材が求められるなか、数理・データサイエンス・AIを適切に活用することは、外国語の運用に加え、国際社会で活躍する人材にとって当たり前求められるスキルとなりつつあります。これからの社会において不可欠な学問領域である、数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することは、本学の理念である「行動する国際人」を養成するために不可欠な要素であると考え、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを設置しました。

身につけられる能力

「キャンパスライフ入門」では、大学における学びを効果的に進めるために必要な様々な知識や技術、ものの見方や規範等のうち、初年次から不可欠なもの、本学における学びの基礎的な資質を育ててゆきます。2024年度からは、特に情報科学分野の基礎を中心に学修し、「社会におけるデータ・AI活用」「データ・AI活用における留意事項」について学びます。「データサイエンス入門」では、社会で活用されているデータやその技術・最新動向について学ぶとともに「データリテラシー」を身につけます。また生成AIやプログラミング、自然言語処理の基礎を習得します。世界で活躍する人間にふさわしいリテラシーや倫理を備え、多様な背景を持つ人々と協働する力の修得を目指します。

科目構成と修了要件

下記2科目を履修し、2科目とも単位修得した場合、リテラシーレベルを修了するものとします。

前期：キャンパスライフ入門

後期：データサイエンス入門

2024(令和6)年度以降入学生の必履修科目
2023(令和5)年度以前入学生も履修可能

オンデマンド実施・リレー講義

対面実施・複数クラス開講

大学における学びを効果的に進めるためには、様々な知識や技術、さらにはものの見方や規範等を新しく修得してゆくことが必要になります。そのうち初年次から不可欠になるもの、特に本年度から情報科学分野の基礎を中心に学修し、本学における学びの基礎的な資質を育ててゆきます。

現代社会では専門分野を問わず、データを処理するための統計学や人工知能、プログラミング等の知識や技術が求められています。この授業では講義と実習を通してこれらの基礎知識や技術を身につけることを目的とします。

【到達目標】

授業で扱われた本学での学びの基盤となる知識、技術、ものの見方や規範等を十分に理解し習得している。

【到達目標】

- ・データサイエンスの基礎知識や技術に関して説明することができる。
- ・データサイエンスに関する実用的な手法を活用することができる。

外国語+数理・データサイエンス・AI=国際社会で活躍する未来



特徴

「データサイエンス入門」ではデータサイエンス・アシスタント制度を導入。同一法人の神戸市立工業高等専門学校の本科4年生以上の学生に協力を得て、Excelやプログラミング、PC操作を授業内でサポートいただいています。本学LMSのQ&A機能だけでなく、対面でも質問しやすい環境を整えています。

実施体制

